令和６年度

成田山文化財団年報

第16号

成田山仏教図書館
成田山霊光館
成田山書道美術館

目　次

成田山仏教図書館 …… 1

概要
令和６年度事業報告
令和７年度事業予定
寄贈図書・資料
調査報告
白鳥庫吉氏寄贈書について ……椎名　ゆう子

成田山霊光館 …… 10

概要
令和６年度の活動
収蔵資料・利用状況
博物館実習・寄贈図書
令和７年度の展示予定
研究報告
初代小錦八十吉と成田山 ……矢嶋　毅之
月岡芳年が描いた祐天の呑剣譚３種 ……猪岡　萌菜

成田山書道美術館 …… 20

概要
令和６年度事業報告
展示事業・展示要旨・入館者数・普及事業
収蔵資料・寄贈作品資料・貸出作品・寄贈図書
令和７年度事業予定
研究報告
収蔵品のデジタルアーカイブ化対応状況について
……山﨑　亮

寄付金のお願い ……34

案内図・利用案内 ……35

成田山仏教図書館

概要

当館は、成田山中興第15世貫首石川照勤僧正により、明治34年（1901）１月、時の文部大臣松田正八氏へ設置の届け出を済ませ「私立成田図書館」として設立、翌35年２月11日に開館された。

初代館長であった石川照勤は、設立開申書の中で「私儀コノ度公衆ノ閲覧ニ供センガ為メ内外ノ図書ヲ蒐集シ私立成田図書館ヲ設置仕候条此段及開申候也」と記し、この設立の精神は、「成田山の宗教的使命達成と、地方文化向上のため」「我が国の精神文化の向上のため」である、としている。

①　旧成田図書館

時代と共に老朽化・狭隘化した本館は、昭和59年10月に「市立成田図書館」が開館されたことにより、その任を譲り、昭和63年の全面改築を機に「成田山仏教図書館」と館名を変更し、蔵書の特殊性に鑑み専門図書館として運営されることとなり、今日に至っている。

②　成田山仏教図書館

蔵書の公開

図書館のホームページより、全蔵書（雑誌・研究紀要論文・雑誌論文を含む）を検索可能とし、タイトル数にして約80万件のデータベースとなっている。

ホームページURL　http://naritasanlib.jp/

令和６年度業報告

１．職員

兼任２名（館長，総務課長）

常駐２名（司書１名，事務職員１名）

２．利用状況

来館総数　1,795人

（一般／1,289人・学生／506人）

開館日数　294日

蔵書利用冊数　7,446冊

ホームページ利用者数　2,343,334人

蔵書検索アクセス総数　3,482,524件

３．資料購入

図書　47種

新聞・雑誌（年間購読）　81誌

４．現在蔵書数

３月末現在　338,618冊（除雑誌）

前年度比　281冊増

主な事業

１．ウェブ公開データ随時修正更新作業

２．図書購入

仏教書を中心とする書籍、全集などの継続図書、既に所蔵する雑誌の欠本補充分を主に購入。

３．資料保存

破損本の再製本、雑誌の合本製本、和装本、巻物類等の帙及び桐箱作製など。

４．蔵書配架整備

配架スペースに入りきれなくなった図書の配架移動調整。

令和７年度事業予定

１．職員

兼任２名（館長，総務課長）

常駐２名（司書１名，事務職員１名）

２．開館日

火・土の２日間を通常開館、水・木・金・日を予約閲覧日とする。自習等の閲覧室利用は、予約閲覧日も利用可。

３．ウェブ公開データ随時修正更新作業

４．図書購入

仏教書を中心とする書籍、全集などの継続図書、既に所蔵する雑誌の欠本補充分を主に購入。

５．資料保存

破損本の修復、再製本、雑誌の合本製本、和装本、巻物類等の帙及び桐箱作製など。

寄贈図書・資料

次の方々より、貴重な図書・資料をご寄贈頂きました。ここに厚くお礼申し上げます。

令和６年４月～令和７年３月

（団体機関・個人　順不動）

図書、資料名・巻号	寄贈者
大原幽学記念館報告　10	旭市教育委員会
誇れる国、日本－謀略に！翻弄された近現代－第17回	アパグループ
現観荘厳論に対するHaribhadraの二注釈書の比較研究	天野宏英氏
池上　60-４～61-４	池上本門寺
AS THE WIND BLOWS	Shinya Itahana氏
市立市川歴史博物館館報　令和４年度	市川歴史博物館
更級日記千年紀文学賞受賞作品集　4	市原市教育委員会
伊能忠敬記念館年報　25，26	伊能忠敬記念館
伊能忠敬研究（「伊能図探求」継承　季刊「史料と伊能図」）　102～105	伊能忠敬研究会
図書　904～915	岩波書店
印西市史　通史編 4	印西市教育委員会
印西の民話　そうふけっぱらのきつね	印西市教育委員会
印度学宗教学会 論集　50	印度学宗教学会
東国にいる親鸞	植野英夫氏
稲　５-３～５-６，６-１	槍田良枝氏
傘松　967～978	永平寺
円覚　346～348	円覚寺派宗務本所
大倉山論集　70	大倉精神文化研究所
大谷大学研究年報　75，76	大谷学会
大谷学報　102-２～103-２	同上
椿海干拓350周年記念　干潟八万石物語	大原幽学記念館
三井寺　206～209	園城寺
都鳥が見た古代－埼玉県東部地区の奈良時代・平安時代－	春日部市郷土資料館
香水のひみつ	株式会社Gakken
空港のひみつ	同上
大相撲のひみつ	同上
フードデリバリーのひみつ	同上
舞台照明のひみつ	同上
図書館のひみつ	同上
海のひみつ	同上
納豆のひみつ	同上
皮ふとぬり薬のひみつ	同上
植物油のひみつ	同上
光ファイバケーブルのひみつ	同上
SDGsのひみつ14	同上
小麦はどこから来たの？	同上
気象情報のひみつ	同上
馬のトレーナーのひみつ	同上
民具マンスリー　56-10～56-12，57-１～12	神奈川大学日本常民文化研究所
歴史と民俗　41	同上
神奈川近代文学館　164～167	神奈川文学振興会
神奈川近代文学館年報　令和５年度	同上
社寺明細帳図－明治13年神奈川県下の神社・寺院の姿－	神奈川県立金沢文庫
旅する大蔵経－称名寺所蔵宋版一切経の道程－	同上
金沢文庫研究　353	同上
称名寺の賢聖衆－如来、羅漢、菩薩－	同上
神の光　1159～1168	神の光社
仏教文化論集　13	川崎大師教学研究所
川崎大師教学研究所 紀要　9	同上

川崎大師だより　757～768　同上
お大師さまとともに　53　同上
「弘法大師」諡号奏請の僧　ふるさと鶴尾に産まれたかんげんさん
観賢僧正顕彰祭実行委員会
汲古　85，86　汲古書院
九州龍谷短期大学紀要　71　九州龍谷短期大学
京都女子大学宗教・文化研究所 研究紀要　37
京都女子大学宗教文化研究所
清水　231～233　清水寺
生命之光　854～864　キリスト聖書塾
金峯山時報　688～699　金峯山時報社
修験道　111～113　金峯山修験本宗宗務庁
抜萃のつづり　84　熊平製作所
くらま　97-4～98-3　鞍馬寺
心華いち輪　信樂香仁管長三年忌に寄せて
同上
バスで行く！千葉の小さな旅　9～18
京葉銀行
もっと知りたい！千葉のおもしろ博物館 1，2
同上
千葉県香取郡神崎町　町道成田神崎線埋蔵文化財発掘調査報告書－堀込1号墳・堀込遺跡・植房遺跡－　神崎町教育委員会
改訂新版　密教の話－曼荼羅の世界－
佼成出版社
大研究！笑顔をつなぐ！介護の仕事
株式会社　講談社ビーシー
興福寺仏教文化講座要旨　480～491
興福寺教学部
神戸親和女子大学研究論叢　57，58
神戸親和女子大学
高野山　49～60　高野山真言宗
密教文化　245～252　高野山大学密教研究会
高野山大学密教文化研究所紀要　37
高野山大学密教文化研究所
中院流三十三尊　英訳研究　同上
JICA MAGAZINE　18～23　国際協力機構
国際仏教学大学院大学研究紀要　28
国際仏教学大学院大学
BULLETIN OF THE INTERNATIONAL INSTITUTE FOR BUDDHIST STUDIES　6
国際仏教学大学院大学附置国際仏教学研究所
国宝　金剛場陀羅尼経（日本古写経善本叢刊　11）
国際仏教学大学院大学附属日本古写経研究所
日本古写経研究所研究紀要　9　同上
国立国会図書館月報　756～767
国立国会図書館
国家学会雑誌　137-5・6～138-1・2
国家学会
駒沢大学禅研究所年報　36　駒沢大学禅研究所
駒澤大学禅文化歴史博物館紀要　7
駒澤大学禅文化歴史博物館
駒沢大学仏教学部論集　55　駒沢大学仏教学部
駒沢大学仏教学部研究紀要　82　同上
影印　高麗氏系図　高麗神社社務所
虚空　67，68　小宮一雄氏
わかば　912～923　金光教少年少女会連合本部
今東光　全年譜　上下
今東光［全年譜］刊行事務局
新井白石の青春と生涯－誰も知らない「白石物語」－
坂井昭氏
新井白石肖像画の制作過程考　補正版　同上
講演「画像で紹介する新井白石の漢詩のふるさと各地」記録写真集　同上
新井白石の青春と生涯－だれも知らない「白石物語」－附録資料集　同上
月刊 嵯峨　1109～1120
嵯峨御所大覚寺嵯峨御流華道総司所
佐倉市市制施行七十周年記念　城下町佐倉絵図集成　佐倉市教育委員会
佐倉城跡（三ノ丸浅間社脇）発掘調査報告書－急傾斜地崩壊対策工事に伴う発掘調査－　同上
佐倉とその周辺地域の鉄道文学と明治郵便史
同上
風媒花　9,10　同上
里見氏研究 3　里見氏研究会
三康文化研究所年報　55，59　三康文化研究所
書道文化　20　四国大学書道文化学会
遊行　228～231　時宗総本山宗務所
四天王寺　820～825　四天王寺
斯道文庫論集　59　斯道文庫
源氏物語はいかに創られたか－伏流する紫式部のヒューマニズムを読み解く－　柴井博四郎氏
芝山町埋蔵文化財調査報告書　16
芝山町教育委員会
福祉の先駆者　長谷川良信－良信先生の夢と挑戦－　淑徳大学長谷川仏教文化研究所
浄土宗関東十八檀林　常福寺類聚　2（淑徳大学アーカイブズ叢書　13）　同上

現代日本における仏教社会福祉事業の歩み（2011～2020）－東日本大震災から新型コロナ発生まで－　同上
大乗淑徳学園　長谷川仏教文化研究所研究年報　48　同上
日蓮仏教研究　15　常円寺日蓮仏教研究所
本山修験　227～229　聖護院門跡
浄土宗新聞　686～697　浄土宗
深草教学　35　浄土宗西山深草派宗務所
昭和学院短期大学紀要　61　昭和学院短期大学
白井市郷土資料館年報　21　白井市郷土資料館
御室派宗報　260～262　真言宗御室派宗務所
真言宗善通寺派 宗報　144～146　真言宗善通寺派宗務庁
真言宗智山派 宗報　883～894　真言宗智山派宗務庁
生きる力 SINGON　117～120　同上
宗祖弘法大師ご誕生千二百五十年奉修紀要　同上
同朋新聞　797～809　真宗大谷派宗務所
真宗　1442～1453　同上
新宗教新聞　1146～1151　新宗教新聞社
真宗文化－真宗文化研究所年報－　33　真宗文化研究所
神変　1283　神変社
月刊 ひかり　770～781　西山浄土宗
復刻　西山禅林学報　自７～至11　西山禅林学会
WCRP［WORLD CONFERENCE ON RELIGION AND PEACE］　533～543　世界宗教者平和会議日本委員会
平和のための宗教－対話と協力－　16，17　世界宗教者平和会議日本委員会
全国珠算新聞　665～670　全国珠算教育連盟
浅草寺日記　44　金龍山浅草寺
浅草寺　719～728　浅草寺教化部
浅草寺仏教文化講座　68　同上
るりの光　251　総本山一畑寺
仁和　106～108　総本山仁和寺
出羽三山と袖ケ浦の山岳信仰　袖ヶ浦市教育委員会
重要無形民俗文化財　上総堀りの技術伝承用記録誌　上総堀りの技術を未来へ　同上
コミュニティ　172，173　第一生命財団
ポスチャー［POSTURE］　51　同上
天台学報　66　大正大学天台学会
かがみ　54　大東急記念文庫
跳龍　76-４～77-３　大本山総持寺出版部
宗報大覚寺々報 大覚寺　803～815　大本山大覚寺
はなびら　123～126　同上
大雄　174～177　大雄山最乗寺
高尾山報　722～734　高尾山薬王院
館山市立博物館報 ミュージアム発見伝　98　館山市立博物館
玉藻　1120～1128　玉藻社
智青　242～243　智山青年連合会
商人たちの選択-千葉を生きた商家の近世・近現代－　千葉市立郷土博物館
ひまわり倶楽部　R6.6　ちばぎん総合研究所
千葉県内重要古墳詳細分布調査報告書　千葉県教育委員会
千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告　54～58　同上
50年のあゆみ－公益財団法人千葉県教育振興財団設立50周年記念誌－　千葉県教育振興財団
創立50周年記念提言　千葉県の2050年の将来像　千葉県経済同友会
芸文協ちば　97　千葉県芸術文化団体協議会
らいぶらりあん　65　千葉県公共図書館協会
千葉県詩集　57　千葉県詩人クラブ
千葉県統計年鑑　Ｒ５年版　千葉県統計協会
指標で知る千葉県－千葉県統計指標－　2024　千葉県統計協会
千葉県勢要覧　Ｒ５年版　同上
広報 ねこな　44　千葉県根木名川土地改良区
優しい流れに会いにゆく－千葉県の川コンセプトブック－　千葉県博物館協会
MUSEUMちば－千葉県博物館協会研究紀要－　48　同上
ちばの博物館　150　同上
赤松宗旦と利根川図志　千葉県立関宿城博物館
千葉県の図書館　2024　千葉県立中央図書館
海をまとう－万祝染のわざ－　千葉県立中央博物館
千葉県立中央博物館研究報告　17-１　同上
万祝博覧会－海をまとう－　令和六年度特別展図録　同上
開館50周年記念　千葉県立美術館コレクション100選　千葉県立美術館

開館50周年記念　浅井忠、あちこちに行く－むすばれる人、つながる時代－　同上
しあわせ　538，539　千葉県労働者福祉協議会
千葉いまむかし　37　千葉市教育委員会
千葉市史　史料編　11　千葉市史編纂委員会
ふみくら　209～211　千葉市文庫連絡協議会
チベット文化研究会報　182～184　チベット文化研究所
茶屋四郎次郎記念学術学会誌　14　茶屋四郎次郎記念学術学会
CANDANA　55-1～55-3　中央学術研究所
生きがい研究 HEALTHY & ACTIVE AGING 30　長寿社会開発センター
椿一郎　三歌集　椿正明氏
神護寺－空海と真言密教のはじまり－　東京国立博物館
東京大学史料編纂所研究紀要　34　東京大学史料編纂所
東京大学史料編纂所報　59　同上
仏教文化　63　東京大学仏教青年会
仏教文化研究論集　25　同上
東大寺未指定彫刻調査報告書　第一冊　勧進所経庫・指図堂　東大寺
東北大学文学研究科研究年報　73　東北大学大学院文学研究科
東洋学研究　62　東洋大学東洋学研究所
文学論藻　98，99　東洋大学文学部日本文学文化学科研究室
チベット研究（STUDIA TIBETICA）　51　東洋文庫
東洋文庫書報　55　同上
ASPECTS OF THE LITERARY SOURCES IN SOUTH ASIAN HISTORICA LSTUDIES　同上
読書推進運動　676～688　読書推進運動協議会
豊島区立郷土資料館開催シンポジウム「種子屋街道の歴史を今に伝える」資料　豊島区立郷土資料館
図書館車の窓　128，129　「図書館車の窓」編集室
わかりやすい土地読本　土地情報センター
近世門前の経営と都市空間　中村駿介氏
めぐみ　159，160　中山身語正宗伝道出版部
真宗大谷派の海外進出「満州開教」(後編)　名古屋教区教化センター
名古屋成田山　838～849　成田山大聖寺
中島千波　彩図鑑Ⅴ　2015－2024　成田山東京別院　深川不動堂
成田市史研究　48　成田市教育委員会
成田市の文化財　55　同上
成田市内遺跡発掘調査報告書　令和4年度　同上
資料館だより　16　成田市下総歴史民俗資料館
成田商工会議所だより　144～146　成田市商工会議所
成田史談　67・68　成田市文化財保護協会
広報なりた　1504～1527　成田市役所
南都仏教　103　南都仏教研究会
昔むかしのSDGs　西尾市岩瀬文庫企画展　西尾市岩瀬文庫
をかしくあはれは平安文学－「源氏物語」とその周辺」－西尾市岩瀬文庫企画展　同上
酒－西尾市岩瀬文庫企画展－　同上
雙松通訊（SOSHOTSUJIN）　30　二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢学研究センター実施委員会
日本漢文学研究　19　同上
日展ニュース　187～189　日展
日本学士院紀要　78-3～79-2　日本学士院
日本貨幣カタログ　2024　日本貨幣商協同組合
弘道　1149～1154　日本弘道会
日本種苗協会50年史　一般社団法人日本種苗協会
この1冊ですべてがわかる！　インスタントラーメン図鑑　第5版　日本即席食品工業協会
PATIPADA（パティパダー）　30-12～31-11　日本テーラワーダ仏教協会
ブッダの人類平等論－長部経典「世紀経」を読む　同上
真理の花束　同上
季刊 iichiko QUARTERLY INTERCULTURAL　162～165　日本ベリエールアートセンター
密教学研究　56　日本密教学会
月刊 人間　624～632　人間社
あのころの空へ　天知る 地知る 吾知る　同上
念法時報　2093～2127　念法真教
鴛乃声　99-5～100-4　同上
野田市史研究　34　野田市
茂木佐平治邸の百年－醤油醸造家の邸宅から市民会館へ－　野田市郷土博物館

野田市郷土博物館・市民会館　年報・紀要　16
野田市郷土博物館・市民会館
比叡山時報　830～841　比叡山時報社
白光　71-4～72-2　白光真宏会
豊山教学大会紀要　52　豊山教学振興会
常照［仏教大学図書館報］　71
仏教大学付属図書館
仏教大学法然仏教学研究センター紀要　10
仏教大学法然仏教学研究センター
現代語訳　安楽集　同上
道 みち　13　仏教伝道協会
宗教年鑑　令和6年度　文化庁
宗務時報　127　文化庁宗務課
空調　ここが知りたい！
株式会社　文芸春秋企画出版部
電子顕微鏡　ここが知りたい！　同上
法学協会雑誌　141-3～141-11・12　法学協会
浄土　90-4～91-2　法然上人鑽仰会
聖徳　252，253　法隆寺教学部
無上道　904～915　法華宗宗務院
第91回　全国盲学校弁論大会　全国大会　弁論集（2023年度）　毎日新聞社点字毎日
槇　47　槇の会
松戸市立博物館紀要　31　松戸市立博物館
目ざめよ！　105-1　松本阿佐子氏
妙音　795～806　妙音新聞社
花園　74-4～75-3　妙心寺派宗務本所
正法輪　74-4～75-2・3　同上
ミルククラブ　141～144　ミルククラブ
MEIKAI UNIVERSITY JOURNAL OF HOSPITALITY AND TOURISM　19
明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部
ASIAN ICONOGRAPHIC RESOURCES MONOGRAPH SREIES　22～24　森雅秀氏
薬師寺聖教調査報告書　第一輯　大般若経
法相宗大本山　薬師寺
薬師寺　220～222　薬師寺
『普賢行願讃』のテキスト資料　続編（八事山仏教シリーズ4）　八事山興正寺
花はほとけの身体である－生命への意味付け－（八事山仏教シリーズ5）　同上
「人を活かす」理念経営　藪修弥氏
宇宙　189～192　山岡記念文化財団
無盡燈　478～489　大和山出版社
続祐天寺史資料集　祐天寺
四街道市の歴史　資料編近現代 2　四街道市
立正大学人文科学研究所年報 61
立正大学人文科学研究所
立正大学博物館 館報 万吉だより　35
立正大学博物館
立正大学博物館年報　21　同上
大崎学報　180　立正大学仏教学会
立正大学文学部研究紀要　40　立正大学文学部
立正大学文学部論叢　147　同上
月刊 リベラル・タイム（LIBERAL　TIME）　24-5～25-4　リベラルタイム出版社
近代仏教復興の黎明と挫折－本願寺派普通学校と反省会の興亡－　龍谷学会事務局
龍谷史壇　158，159　龍谷大学史学会
仏教史研究　62　龍谷大学仏教史研究会
和光　239　臨済宗建長寺派宗務本院
葬儀・法事をどう説くか
臨済宗妙心寺派教化センター
明法　840～851　霊友会
あした21　901～912　同上

調査報告

白鳥庫吉氏寄贈書について

椎名　ゆう子

千葉県出身の東洋史研究者白鳥庫吉氏（以下、白鳥氏）が、成田図書館（現成田山仏教図書館。以下、当館）に「朝鮮本69部365冊」を寄贈したという記述が、『成田図書館周甲記録』（以下、『周甲録』）および『成田図書館八十年誌』（以下、『八十年誌』）にある。

当館では初代館長を務めた石川照勤上人（以下、照勤上人）以降の成田山新勝寺歴代貫首や、各分野における専門家などからの寄贈書については、個別に寄贈簿を残し管理している。ところが、白鳥氏からの寄贈書に関しては寄贈簿がなく、また、関係する資料の存在がこれまで確認されなかったことから、職員間ではどの書籍が白鳥氏寄贈書に該当するのかわからなかった。

しかし、近年所在に関して問い合わせを受けることもあり、改めて調査する必要性を感じ、館報等の確認を行っている。作業途中ではある

が判明したことがあるので報告したいと思う。

1．寄贈の経緯

蔵書寄贈の経緯については、『周甲録』および『八十年誌』の白鳥氏寄贈書に関する記載の典拠となっている、『成田山五事業大正十五年報』（製本の関係上、当館蔵書検索システムSIMPLE-OPAC（以下､OPAC）上の書名は『成田山五事業年報』以下、『年報』）に当館初代主事高津親義（以下、高津氏）が、

> 本館の設立者たる先代石川僧正と、白鳥庫吉博士とは、真の莫逆の友であった。（中略）
> 明治三十八年の春頃と記憶する。何かの話しの折り、白鳥博士から
>
> > 自分の専攻する学科に就て、大学図書館にもないものがある。自分は今大学にも、学習院にも関係を持って居る。どちらへ請求してもよいが、是れと云ふ特色の乏しい成田図書館で購ふてはどうか。
>
> と云ふ様な意味の話しがあった。其時に故山主は非常に喜んで、言下に快諾された。博士も非常に満足された。爾来博士は鋭意尋索、殆んど世界中の書肆を漁り、希覯本を蒐集された。上目黒の博士の書庫には、一見五六千冊の珍籍が排列されてある。此に断って置くが、其珍籍購入費の全部を、成田図書館が差上げたのではない。要するに本館より支出したものと、博士自身の財嚢より支出されたものと、相半ばして居るのである。

と記している。当館の蔵書とするため、白鳥氏の書籍購入代の一部を照勤上人が出資していたことになる。『年報』大正15年報には続きがある。大正13年（1924）に照勤上人が遷化したのち、高津氏と当時の成田町町長三橋金太郎氏が白鳥氏に面会した際、

> （前略）御承知の如く今ある書物は、石川僧正の好意のものと、自分の買うたものと、混然として居る。之を二分することは困難でもあり、又分離すべき性質のものでなく、折角苦心して集めたもの故、之を分離するに忍びぬのである。仍て自分の処に蔵する書籍は、一括して之を成田図書館に移すことにする。故に図書館に於ても、之を特別取扱と為し、『石川白鳥紀年文庫』として、将来の学会の為めに、永久に保管して貰ひたい。但し今一時に送ることは困る、調査の上、不要になった分より、追々送付することにする云云。（後略）

と伝えられたと述べている。寄贈の約束がなされたのみで、この段階では寄贈されていないことになる。この件に高津氏と三橋氏が関係していたとの記述があり、経緯は概ね記述通りではないかと思われる。

『周甲録』によると、昭和11年（1936）に高津氏が死去したことやその後の世情により、白鳥氏の蔵書を収蔵することは叶わず、当館で所蔵しているのは、それより以前に収蔵している「朝鮮本69部365冊」のみとなっている。

2．調査資料

白鳥氏の蔵書寄贈に関する記述の確認を行ったのは、当館で所蔵している開館から昭和期に発行された以下の資料である。便宜上OPACに登録されている書名を記載している。

- 『成田図書館報告』1～15（M35.6～M43.1年）
- 『成田山五事業年報』M44～S12年度
- 『成田山事業年報』S12～S16
- 『成田山事業概要』S17
- 『成田山財団事業要覧』S29～32,34,37年度
- 『成田図書館報』62～72（S14.3～17.12），復刊1～38（S50～S63）
- 『成田山仏教図書館報』復刊39～76（S63.10～H19.4）

また、『周甲録』および『八十年誌』についても再度確認を行った。なお、「成田山五事業」「成田山事業」とは、照勤上人が欧米留学後に着手した文化的・社会的事業で、成田中学校（現成田高等学校）・成田高等女学校（現成田高等学校）・成田幼稚園・成田図書館（当館）・成田山感化院（現成田学園）を指す。

3．白鳥氏の寄贈書に関する記述

確認された記述は以下の通りである。資料名と要点のみ記載する。

①『成田図書館報告』第9号（明治38年、以下、『報告』）

寄贈書の目録に白鳥氏の名前と書名・数量が記載されている。書名および数量は以下の通りである。なお、『報告』上の書名と、OPAC上の書名やスペルが違っているものが

あり、OPAC上の書名を使用している。
・国朝宝鑑　26冊
・燃藜別編　19冊
・御定洪翼靖公奏藁（第８欠）　18冊
・朝野輯要　17冊
・中京誌　６冊
・大典会通　５冊
・通文館志　５冊
・童蒙先習　１冊
・啓蒙篇　１冊
・千字文　１冊
・太皇太后尊号頌赦勅　１冊
・皇太后伝訃勅　１冊
・南方平定行赦勅　１冊
・王妃冊封勅　１冊
・皇后封典勅　１冊
・太明世子諭祭勅　１冊
・康熙六年頒行詔書　１冊
・Syria Views　３冊
・China　２冊
・Encyclopedie Moderne　24冊
・Memorie Istoriche de Monarchi Ottomani　１冊
他に４冊もの１部があり、次回報告するとあったが、以降の報告に記載はなかった。

②『年報』明治44年報,大正３年報
明治44年報では68部361冊、大正３年報では69部365冊を収蔵している旨が記載されている。『周甲録』および『八十年誌』に記載されていた冊数の典拠と思われる。

③『周甲録』および『八十年誌』年表
大正15年７月８日に、当館司書の成田善亮が白鳥文庫の一部受け取りのため上京している。経緯が掲載されている『年報』大正15年報は６月に発行さているので、発行後に上京したことになる。

④『年報』昭和２年報
昭和元年度（大正15年度）図書寄贈者名簿に白鳥氏の名前があり、112冊が当館に寄贈されている。

⑤『成田図書館報』復刊第34号（昭和60年）
成田の郷土史家川辺春光氏が「昭和十年代成田図書館の新聞記事紹介」と題して、昭和11年９月18日付の東京日日新聞に、白鳥氏蔵書からみだれ版の朝鮮官版「東国文献」が発見されたとの記事を紹介している。この記事に関しては、同日付の東京日日新聞を確認したが、記事は確認できなかった。

４．白鳥氏寄贈書の所在

①の書名を元に蔵書検索を行ったところ、漢籍についてはすべて当館開館時の書架整理番号60函（請求番号：060-0001～0339）に収蔵されていることが判明した。⑤の「東国文献」についても60函に収蔵されている。

しかし、60函に収蔵されているすべてが白鳥氏寄贈書ではなく、当館で購入したものや別の寄贈本も含まれていて、『周甲録』によると当時60函は特大本を収めていたとことがわかった。①の洋書については、洋書棚に同一書名が確認されていることから、当時白鳥氏の寄贈書は個人文庫として扱われていなかったのではないだろうか。

なお、①と⑤で確認された書籍には、当館館印が押印されているのみで、寄贈日や寄贈者に関する印などがなく、請求番号もばらついているため、どこまでが白鳥氏寄贈書か範囲を絞るには、さらに時間が必要である。

また、60函については平成２年（1990）の蔵書点検において欠本が多数確認されている。一部は平成24年（2014）に天理図書館の購入本から発見され、ご厚意により当館に返却されている。

そして、今回新たに大正15年に112冊が寄贈されていたことが判明したが、冊数のみの記載で寄贈簿等の記録も確認できず、どの書籍が該当するのか不明である。

『周甲録』では365冊を白鳥庫吉文庫としていないが、『八十年誌』では白鳥庫吉文庫と表記している。しかし、『年報』大正15年報の記載と、今回確認された記述の時系列から、大正15年に寄贈された112冊が白鳥庫吉文庫に相当すると思われる。

おわりに

作業の途中ではあるが、白鳥氏寄贈書に関する調査で判明したことを報告させていただいた。寄贈書に関する記述は多くはなかったが、一部書籍が確認されたであろうことは大きな成果といえる。しかし、寄贈書の範囲の特定や、新たに寄贈書が確認されるなど課題は多い。

引き続き可能な限り調査を行い、報告を行いたいと思っている。

参考図書

・『成田図書館周甲記録』
（1961年　成田図書館）
・『成田図書館八十年誌』
（1981年　成田図書館）

成田山霊光館

1．概要

当館は、昭和22年（1947）５月３日に財団法人成田山文化財団の運営のもと、成田山の宗教的使命達成と地方文化の向上を目的として創立された歴史博物館である。その前身は、昭和３年６月に社会教育機関として創設された成田山新更会で、戦後まもなく組織ならびに建物等を改組して設立された。昭和46年７月には県内５番目となる登録博物館の指定を受けた。

現在の建物は昭和58年７月に新築されたもので、その翌年建立された平和大塔１階の霊光殿も共通施設として使用されたが、平成16年（2004）３月には展示施設は本館だけとなった。そして同21年４月からは、霊光殿で企画展を開催している。職員は下記の通りである。

館　　長　田中　照広（兼任）
総務課長　名取　照慎（兼任）
総務係長　矢嶋　毅之
学 芸 員　猪岡　萌菜

2．令和６年度の活動

〔展示〕

霊光殿では常設展示「成田山の歴史」をおこなっている。展示は成田山の創建から江戸時代までを対象に、成田山の創建・成田山の興隆・成田山の開帳・成田山と市川團十郎・成田詣とし、資料や写真パネルを通じて紹介している。以下、霊光殿で開催した企画展の概略を記す。

和田三造画像昭和職業絵づくし展　3/9 - 6/2

兵庫県出身の洋画家・和田三造（1883-1967）が様々な職業にたずさわる人々の様子を描いた木版画《昭和職業絵尽》48点のうち、34点を紹介。

お不動様の眷属―矜羯羅童子と制吒迦童子―
6/8 - 9/1

成田山の本尊不動明王像が脇侍として伴う眷属の矜羯羅童子と制吒迦童子を中心に紹介した。

成田山ゆかりの歌舞伎役者　9/7 - 12/8

市川團十郎をはじめとする歌舞伎役者の成田山信仰を紹介した。

霊光館の浮世絵　　1/1 － 3/2

当館所蔵の浮世絵コレクションの中から名品を紹介した。

3．収蔵資料

令和６年度において寄贈または購入により受け入れた資料は41点。主な資料は以下の通り。

〔購入〕

・歴史資料「成田山節分会　一升枡」（大正15年）
・歴史資料「柏原文太郎宛犬養毅書簡」（明治期）
・歴史資料「絵葉書　成田山節分会登山絵はがき」（明治42年）
・歴史資料「市制施行記念　成田観光祭プログラム」（昭和29年）
・歴史資料「九代目市川團十郎」（明治期）
・歴史資料「成田山聖不動経」（明治13年）
・歴史資料「成田山初詣列車時刻表」（昭和６年）
・美術資料「今容女歌仙三拾六番続　松葉楼粧ひ　にほひ　とめき」（文化10年・喜多川式麿筆）
・美術資料「五代目市川海老蔵を江戸に出迎えの図」（嘉永３年・歌川国芳筆）
・美術資料「開扉落涙山非常明王」（安政２年）

〔寄贈〕

・歴史資料「貫首年頭廻礼」（昭和期）
・歴史資料「成田山参拝紀念」（大正12年）
・歴史資料「遅延証明書」（令和６年）

4．利用状況

〔調査など〕

・早稲田大学高等研究所カライスル・アントニオ氏、算額調査のため来館（4/23）
・下総歴史民俗資料館寺内博之氏、成田市和田吉田家について調査のため来館（5/16）
・成田市紺野浩幸氏、史料調査のため来館（5/26、5/29）
・佐倉高校金光康佑氏、生徒11名、成田高校深田富佐夫氏、生徒３名、算額見学・調査のため来館（6/15）
・放送大学関根玲奈氏、史料調査のため来館（6/16、6/29）
・行徳郷土文化懇話会峰崎進氏他４名、成田講について調査のため来館（7/12）
・成田市議会議員水上幸彦氏、西三里塚について調査のため来館（8/27、12/11）
・日本宮彫協会一行８名、安政の本堂の棟札調査のため来館（8/27）
・明治大学大学院有原寛氏、石枕調査のため来館（8/28～8/31）
・千葉工業大学大学院川崎玲雄氏他３名、成田の成り立ちについて調査のため来館（9/13）
・読売新聞佐藤憲一氏､取材のため来館（11/13）
・千葉市石川隆氏他１名、石川甚兵衛について調査のため来館（12/13）
・千葉市石川隆氏、石川甚兵衛について調査のため来館（1/10）
・成田高校芝優太氏、荒海区有文書について調査のため来館（1/16）
・栄町史荒井信司氏他１名、史料調査のため来館（2/4）

〔貸出・提供〕

・千葉県立中央博物館地域展「大多喜　台古墳群の鏡がうつし出す時代」解説パンフレットへの「半円方格帯変形神獣鏡」の画像使用を許可（4/16）
・千葉市蘇我コミュニティーセンター講演会「千葉氏成立と開府900年を検証する」チラシへの「千葉常胤肖像画及び自詠短冊」の画像使用を許可（4/20）
・TBS「それSnow Manにやらせて下さい」（令和６年５月10日放送）へ、松井天山画「千葉県成田山新勝寺鳥瞰図」の画像使用を許可

(5/8)
・戎光祥出版発行『歴史研究』721号（令和６年６月末刊行）へ「上総介広常の図」の画像使用を許可（6/7）
・京都芸術大学通信教育部芸術教養学科テキスト（令和７年３月刊行予定）へ、二代鳥居清満画「源氏模様娘雛形の図」の画像使用を許可（6/27）
・テレビ朝日「クイズプレゼンバラエティーQさま！！」（令和６年９月２日放送）へ、「千葉常胤肖像画及び自詠短冊」の画像使用を許可（8/30）
・山川出版社『日本史のなかの千葉県』（令和６年12月刊行）へ、新川斎万太郎画「暫の図」の画像使用を許可（9/13）
・千葉県高等学校教育研究会数学部会誌『α－ω』62号へ、算額２点の画像使用を許可（10/14）
・京成電鉄株式会社『京成電鉄115年史』（令和７年４月刊行予定）へ、「京成電鉄　谷津遊園案内」の画像使用を許可（11/16）
・丸井敬司著『千葉介常胤と鎌倉幕府創設』（令和７年１月刊行予定）へ、「千葉常胤肖像画及び自詠短冊」の画像使用を許可（12/20）
・山川出版社発行の文部科学省教科書用図書及び教科用特定図書へ、歌川国芳画「火消千組の図」の画像使用を許可（1/18）
・講演会「千葉介常胤と鎌倉幕府創設」チラシへ、「千葉常胤肖像画及び自詠短冊」の画像使用を許可（2/28）

５．博物館実習

９月５日から12日まで博物館実習を実施した。受け入れた学生の内訳は以下の通りである。

川村学園女子大学　２名
桜美林大学　１名

６．寄贈図書（令和６年４月～令和７年３月）

博物館だより 181～184　岩手県立博物館
年報　令和５年度　東北歴史博物館
研究紀要　25　同上
年報　50・51　仙台市博物館
館報　18号　稲敷市歴史民俗資料館
川瀬巴水　図録　同上
土浦のたからもの　図録　土浦市立博物館
館報　12号　大洗町幕末と明治の博物館
神栖市近世史料集　第二集　山本家文書一　神栖市歴史民俗資料館
かわはく　78～80　埼玉県立川の博物館
紀要　24　同上
館報　50～52　市川市川考古博物館
館報　令和４年度・令和５年度　市立市川歴史博物館
年報　26　伊能忠敬記念館
印西市史通史編４近現代　印西市教育委員会
令和４年度印西市内遺跡発掘調査報告書　同上
研究紀要　6　印西市立印旛歴史民俗資料館
令和４年度柏市市内遺跡発掘調査報告書　柏市教育委員会
柏市埋蔵文化財調査報告書　109・110　同上
柏市埋蔵文化財調査報告書113・114　柏市柏インター西土地区画整理組合
柏市埋蔵文化財調査報告書113　同上
千葉県柏市寺下前遺跡（第24次）　株式会社地域文化財研究所
年報　第37号　鎌ヶ谷市郷土資料館
郷土資料館だより　67～70　同上
香取　125・126　香取神宮崇敬会
高等女学校生徒の絵日記を読む　神山知徳
令和５年度君津市内遺跡発掘調査報告書　君津市教育委員会
富吉遺跡　同上
外箕輪遺跡Ⅶ　同上
久留里城跡３　同上
年報　44・45　君津市久留里城址資料館
長板中形　図録　同上
里見義堯　図録　同上
資料館だより　55　同上
歴博色尽くし　図録　国立歴史民俗博物館
歴史の未来　図録　同上
要覧　2024年度　同上
REKIHAKU 11～13　同上
城下町佐倉絵図集成　佐倉市
令和４年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書　佐倉市教育委員会
六崎外出遺跡（第６次）発掘調査報告書　同上

佐倉城跡（三ノ丸浅間社脇）発掘調査報告書
同上
本佐倉城跡発掘調査報告書Ⅴ　酒々井町
小堤遺跡大里田辺台古墳群　芝山町教育委員会
アーカイブズ・ニュース　23
淑徳大学アーカイブズ
福祉の先覚者長谷川良信　図録　同上
年報　21　白井市郷土資料館
かおりだより　9・10　同上
小金牧と白井　図録　同上
令和４年度不特定遺跡発掘調査報告書
匝瑳市教育委員会
令和５年度袖ケ浦市内遺跡発掘調査報告書
袖ヶ浦市教育委員会
上総掘りの技術を未来へ　同上
史跡山野貝塚整備基本計画　同上
出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰　図録
袖ヶ浦市郷土博物館
大巌寺三世雄誉霊厳上人　大巌寺
館報　98　館山市立博物館
千葉県誕生150周年記念誌　千葉県
α-ω　62号　千葉県高等学校教育研究会数学部会
房総の文化財　63　千葉県教育振興財団
研究連絡誌　89・90　同上
文化財センター年報　49　同上
会報　119・120　千葉県文化財保護協会
千葉文華　47　同上
ちばの博物館　151　千葉県博物館協会
MUSEUM ちば　48　同上
千葉県の文書館　第30号　千葉県文書館
海を渡った房総の人びと　図録　同上
市原市分目　岡田（利）家文書目録　6　同上
赤松宗旦と利根川図志　図録
千葉県立関宿城博物館
大多喜台古墳群の鏡がうつし出す時代　図録
千葉県立中央博物館
海をまとう　図録　同上
千葉県立美術館コレクション100選
千葉県立美術館
浅井忠、あちこちに行く　図録　同上
みる　かたる　つくる　50　同上
千葉いまむかし　37　千葉市教育委員会
商人たちの選択　図録　千葉市立郷土博物館
ちば市史編さん便り　32・33　同上
千葉大学ユーラシア言語文化論集　25
千葉大学ユーラシア言語文化論講座
令和４年度冨里市内遺跡発掘調査報告書
富里市教育委員会
令和５年度冨里市内遺跡発掘調査報告書　同上
年報　46　流山市立博物館
博物館だより　5・6　同上
流山市史研究　25　同上
創立125周年記念誌　成田高等学校
法談　70号　成田山法談会
令和４年度成田市内遺跡発掘調査報告書
成田市教育委員会
成田市史研究　48　同上
成田市の文化財　第55集　同上
資料館だより　16　成田市下総歴史民俗資料館
成田史談　67・68　成田市文化財保護協会
ふるさと　44　成田市文化財保護協会公津支部
年報・紀要 第16号・第17号
野田市郷土博物館・市民会館
茂木佐平治邸の百年　図録　野田市郷土博物館
令和５年度船橋市内遺跡発掘調査報告書
船橋市教育委員会
東中山台遺跡群（67）・（87）　同上
上ホシ遺跡（11）　同上
中法伝貝塚（17）　同上
小野田遺跡（２）　同上
川ノ上遺跡（９）　同上
令和５年度　年報　船橋市郷土資料館
みゅーじあむ・船橋　22・23
船橋市郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館
紀要　20　船橋市立飛ノ台史跡公園博物館
令和４年度松戸市内遺跡発掘調査報告書
松戸市教育委員会
小金城跡第25地点発掘調査報告書　同上
千葉介常胤と鎌倉幕府の創設　丸井敬司
茂原市史資料編Ⅰ（原始・古代、中世考古）補足資料１　茂原市
市内遺跡等発掘調査報告書
八千代市教育委員会
新林遺跡j地点　同上
椿山遺跡a地点　同上
鞘池台遺跡b地点　同上
四街道の歴史 資料編近現代２　四街道市
令和４年度四街道市内遺跡発掘調査報告書
四街道市教育委員会

国府台　27
和洋女子大学文化資料館・博物館学課程
下総考古学　26　下総考古学研究会
江戸手描友禅　図録　板橋区立郷土資料館
樺太紀行　図録　同上
第22回　歴史民俗研究　板橋区教育委員会
博物館学芸員課程年報　2023年度 桜美林大学
博物館だより　138 葛飾区郷土と天文の博物館
徳川三代と青戸御殿　図録　同上
博物館だより　86・87　家具の博物館
研究報告　第41輯　国学院大学博物館
百万塔　178～180　紙の博物館
京成らいん　753～760　京成電鉄
京成電鉄115年の歩み　同上
美術館ニュース　298～300　サントリー美術館
紀要　22号　相撲博物館
大東文化大学博物館学講座だより　18
大東文化大学博物館学講座運営委員会
年報　39　たばこと塩の博物館
時代とあゆむ袋物商　図録　同上
研究紀要　34　東京大学史料編纂所
所報　59号　同上
紀要　第15号　東京都江戸東京博物館
金鯱叢書　51　徳川黎明会
日展ニュース　187～189　日展
あるむぜお　147～151　府中市郷土の森博物館
自由民権　37　町田市立自由民権資料館
美術文化史論集　17　三井記念美術館
茶の湯の美学　図録　同上
芝田町四丁目町屋跡遺跡ほか遺跡発掘調査報告書　国際文化財株式会社
筑前福岡藩黒田家屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅱ　株式会社イチトニ
我善坊谷遺跡発掘調査報告書
大成エンジニアリング株式会社
史観　191・192　早稲田大学史学会
伝統と文化　48　ポーラ伝統文化振興財団
トランヴェール　434　JR東日本企画
中島千波　彩図鑑Ⅴ　株式会社求龍堂
日本史のなかの千葉県　山川出版社
英文　詳説日本史　同上
近世門前の経営と都市空間　中村駿介
友の会会報 201～204 熱川バナナワニ園研究室
民具マンスリー　673～684
神奈川大学日本常民文化研究所
歴史と民俗　41　同上
自然と文化　47　平塚市博物館
年報　47　同上
研究報告　68　横須賀市自然・人文博物館
開港のひろば　157・158　横浜開港資料館
資料館だより 241～243 沼津市歴史民俗資料館
あなたと博物館　248～251　松本市立博物館
美術館だより 487～498　石川県立美術館
名古屋成田山　838～850　成田山大聖寺
研究紀要　40・41　滋賀県立琵琶湖文化館
博物館学年報　55
同志社大学博物館学芸員課程
京都府埋蔵文化財情報　147・148
京都府埋蔵文化財調査研究センター
京都の遺跡　14～16　同上
館報　55　住友史料館
年報　令和５年度　大阪歴史博物館
館報　37　天理参考館
霊宝館だより　146～149　高野山霊宝館
子規博だより　159～161
松山市立子規記念博物館
萩　111～114　山口県立萩美術館・浦上記念館
九州王国　エー・アール・ティ
館報　36　熊本市立熊本博物館
くまはく　NEWS LETTER 11・12　同上
REIMEI 42-１～42-４
鹿児島県歴史・美術センター黎明館
開館40周年記念誌　黎明館　同上

７．令和７年度の展示予定

展示場所は成田山平和大塔１階霊光殿。企画展示の概要および展示期間は以下の通り。

安政の本堂　3/7－6/29

安政５年（1858）に建立された新本堂（現釈迦堂）はその後の成田山の繁栄につながるものであった。この大事業の経緯を紹介する。

千葉県の名所　7/5－9/7

成田山霊光館のコレクションの中から、千葉県の名所を描いた浮世絵を中心に、千葉県内の名所について紹介する。

成田山の講（仮称）　9/13－12/7

成田山信仰を広めた要因のひとつに各地に設

立された成田講が大きな役割を果たした。成田講の実態、役割などを紹介する。

成田山に初詣　1/1 – 3/1

初詣に節分、梅まつりと、１年を通じて成田山がひときわ賑わいを見せる季節に、一体何が人々を成田山参詣にいざなったのかを紹介。

8．研究報告

初代小錦八十吉と成田山

矢嶋　毅之

今回紹介する小錦八十吉は高見山に見いだされ、外国人初の大関となったハワイ出身の力士ではない。因みに、こちらの小錦（1963–）は２代目となる。

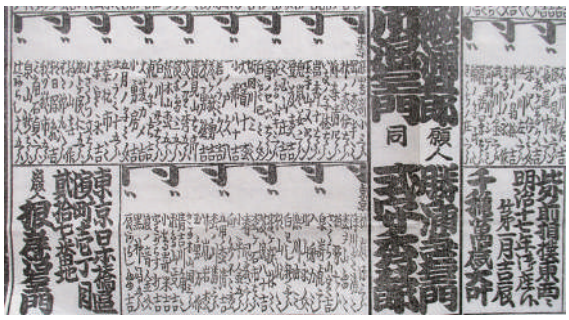
本稿では明治期に活躍し千葉県出身の力士で、第17代横綱になった初代小錦八十吉（1867–1914）と成田山との関係を紹介する。

小錦は慶応３年（1867）10月、上総国武射郡横芝村（現千葉県横芝光町）に生まれ、八十吉と名付けられた。父親の岩井弥市は料理屋を営む一方で、岩城川というしこ名で草相撲をとり強豪力士として周辺に知られていた。

幼い頃から八十吉は、父岩城川の活躍ぶりをみて育ったためか、自分も力士に憧憬の念を抱いていた。そして近隣の相撲大会に出場しては好成績をのこしていた。

明治13年（1880）春、父弥市は同郷ですでに年寄となっていた初代高砂浦五郎（1839–1900）に入門を懇願し、晴れて高砂部屋の門下となった。明治17年に序二段で初めて番付に名が記され、同21年５月には幕内西前頭９枚目で８勝１預かりで初優勝を果たした。入幕後６場所は負けを知らず39連勝をとげた。出足がすばらしく行司の掛け声が終わらないうちに勝敗が決したという。色白の愛嬌にとんだ風貌から人気も得ていた。また人望も高かったようだ。

このように、角界に入門し、順風満帆な相撲人生を過ごしていた小錦であるが、実は相撲の厳しさを目の当たりにして、何度か帰郷したこともあった。しかし、小錦の才能を見込んでいた高砂は弟子を見放すことはなかった。



明治17年１月場所の番付
上段中央に「小錦八十吉」とある。

第17代横綱小錦八十吉（春斎画）

小錦の師匠である高砂は当時の成田山の住職である三池照鳳と交流があった。明治20年頃、高砂部屋の力士鶴ケ岩が自らの精進のため成田山で断食修行を決心した。このとき高砂は照鳳上人に書簡を発し鶴ケ岩の世話を頼んでいる。この書状には「門弟小錦と申す者の親岩城川は上人とは格別御贔屓を請け蒙り候由」とあり、岩城川も高砂の弟子のことを心配し、照鳳上人に尽力を乞うている。

岩城川と照鳳上人の交流がいつ頃から始まったのかははっきりしないが、明治16年９月６日、

岩城川は成田山を訪れている。この頃小錦はすでに入門しているがまだ番付にしこ名がなく、力士として飛躍のきっかけをつかめていなかった。

力士の成田山信仰については、親の仇を討つため成田山に祈願し大願を果たした桂川力蔵の霊験談がある。若き小錦の前途を不動明王の加護に託したのではないだろうか。

小錦の躍進ぶりは前述した。初優勝を果たした小錦が故郷で興行を催すにあたり、明治22年４月、照鳳上人は小錦の親孝行をほめたたえ、金百円を贈っている。

小錦と照鳳上人との交流は深まり、場所前には必ず番付を送り、巡業先から近況を報告するなどしていた。

明治28年１月場所を優勝し、小錦の強さが際立つなかで、相撲界に混乱が生じた。翌年１月11日、初日を迎えたが、小錦の師匠高砂と大関大戸平ら西方力士らが対立し、大戸平らは「不正な取締の下では相撲は取れない」と１月15日に激告書を提出した。これを契機に高砂に不満をもつ親方衆も大戸平らに呼応した。この結果、同17日高砂は改革着手を回答し、翌日両国中村楼で手打ち式が行われた。

翌日から１月場所は再開されたが、横綱西ノ海は休場し、そのまま引退した。小錦は師匠高砂が批判をうけるなか７勝１敗１休みの成績に終わった。

このとき小錦は大関であった。大関での優秀な成績を残していることで横綱昇進の話があり、場所後、小錦は関西方面の巡業、熊本での免許授与式と続く多忙なスケジュールに直面した。そのため照鳳上人への場所後の報告はできず、２月11日、巡業先の兵庫県龍野から照鳳上人に書簡を発している。このとき照鳳上人は東京神田区小川町（現東京都千代田区）にあつた山龍堂病院で療養中であった。

この書簡には場所後挨拶に伺うつもりであったが、さきの紛擾事件に際して警視庁から召喚状が出されていたため出頭したとある。そして警視総監から「（相撲）組合之紛紜ハ相撲社会之不名誉、誠に利益ト不相成ニ付調和致セトノ御説諭」があったと記されている。人望のある小錦に警察トップが相撲界の調和・安定を託していたと思われる。

聴取を終え、小錦は直ちに神戸に出発した。興行は神戸・姫路・岡山・福山・広島と続く。そして書簡には「皆様のお陰」で次の場所で横綱を張ることが決まったと記している。

小錦以前の横綱は上覧相撲や天覧相撲があるとき免許が付される場合が多かったが、小錦の場合は大関の成績が評価されての事であったようだ。また30歳未満での横綱昇進は当時としては目を見張る早さであった。

明治29年３月に小錦は第17代横綱に就任した。熊本での横綱免許式を終えたころ、千葉の知人から照鳳上人が未だ療養中であることを記した書状を受け取ると、すぐに照鳳上人に御見舞状を送っている。そこには来５月場所から横綱を張ることになるが、今後もよろしく頼むとある。照鳳上人は療養の甲斐なく６月に遷化した。

横綱昇進後の小錦の成績は振るわず、明治34年引退、年寄二十山を襲名し相撲界の発展と弟子の育成に尽くした。

小錦が照鳳上人に宛てた書簡
（明治29年３月28日付）

【参考文献】
・『国技相撲の歴史』（1977年、ベースボール・マガジン社）
・『古今大相撲事典』（1980年、読売新聞社）
・高永武敏『古今名力士百傑』（1982年、恒文社）

月岡芳年が描いた祐天の呑剣譚３種

猪岡　萌菜

浮世絵師月岡芳年（1839-92）は幕末から明治にかけて活躍し、血みどろの残酷絵や新聞挿絵、歴史画、美人画で人気を博した。その人気は同時代的なものにとどまらず、現代においても、躍動感のある構図や人体表現の妙は好評で、ゲームやアニメ作品のキャラクターとコラボレーションした人気作のオマージュが作られるなど、現代の表象に芳年作品が及ぼしている影響も決して小さくはない。

成田山との関係で言えば、明治18年（1885）に山岡鉄舟が書、芳年が絵をそれぞれ手掛けた肉筆絵馬「不動明王の図」が奉納されている（奉納者は根津遊廓大松葉楼楼主の渡坂清吉）。このほか芳年には、成田不動にまつわる祐天（1637-1718）の霊験譚を主題とした作品がある。

祐天は江戸中期の浄土宗の高僧で、増上寺36世を務めた他、その遺命により目黒区の祐天寺が建立されている。また、累ヶ淵（現・茨城県常総市）を舞台に、累という女性の怨霊を得度させたいわゆる累説話が、仮名草子や歌舞伎等に取り入れられ、大衆文化の中においては、怪異を鎮める力を持つ僧としてよく知られた人物である。

この祐天には、幼少期自らの鈍に悩み、成田山で断食修行したところ、満願の日の夜に本尊不動明王が示現し、不動が手にした利剣を呑み悪血を吐き出したことで智恵を授かり聡明な僧となったという伝承がある。

この霊験譚は本来、同じ浄土宗の中世の高僧で、千葉市の生実大巌寺を開き、増上寺９世も務めた道誉（1515-74）にまつわるエピソードで、成田山、大巌寺双方の縁起にも、不動の剣を呑んだ僧は道誉として記されている。これが江戸中期以降に祐天のエピソードの中に取り込まれ、以後もっぱら大衆文化の中では祐天にまつわる霊験譚として流布し、人口に膾炙した。

芳年はこの大衆文化として広く親しまれていた祐天の呑剣譚を主題とした作品を、江戸から明治にかけて、確認できている限り３点描いている。制作時期が古いものから順に、「東錦浮世稿談」シリーズの「祐天沙弥」（慶応３年（1867））、「雅立功名鑑」の中の「祐天大僧正」（明治10年代（1877-86）頃）、３枚続の「祐天上人利生記の図」（明治18年（1885））である。同じ主題を描いたこれら３点であるが、それぞれ細かな違いがみられる。これら３点をそれぞれ比較することで、芳年が主題への理解とそれをいかに絵画表現に落とし込んだか、作画時期の違いとその時間経過による変化も合わせて追えそうである。

１、「東錦浮世稿談」祐天沙弥【図１】

護摩壇の上の祐天と成田不動を斜め後方から捉えた角度である。こちらに顔を向ける祐天は眉根を寄せて口を大きく開け、指を組み合わせた形で合わせた手を大きく伸ばす。その祐天の胸倉を左手で鷲掴みにした不動が、右手に持った剣を今まさに祐天の喉に突き入れようと前傾姿勢を取る。この、不動が祐天の襟首周りを押さえ付けて剣を呑ませようとするポーズは、七代目市川團十郎（1791-1859）が歌舞伎の中でこの呑剣シーンを演じた際の所作に由来する。

不動の衣は翻り、動作の勢いを示すとともに、霊験あらたかな存在が示現したことを表すかのようにその身の周りにもやが立ち込め、不動の衣装と一体化するようにたなびく。背景は紺地で、夜の出来事であるのを示しているのであろう。祐天や不動の顔貌表現、不動の腕の筋肉の描き方といった様式は、芳年の師である歌川国芳（1798-1861）の影響下にあることを強く感じさせる。

２、「雅立功名鑑」祐天大僧正【図２】

「雅立功名鑑」は中判錦絵のシリーズである。開板時期は詳らかでないが、印章に明治６年以降の号である「大蘇」が用いられており、例えば国立国会図書館蔵の同シリーズに「明治十年　月」との表記が見られるため、明治10年代頃とみてよいだろう。また後述の理由により、３枚続の同主題作品より先行して描かれたものと考える。

本図は祐天や不動のポーズの点から、【図１】の「東錦浮世稿談」の祐天と不動を別アングルから捉えたような作品と言える。【図１】から視点の位置がぐるりと180度移動し、祐天を背中側から、不動を正面から見る構図である。祐

天は【図１】のように指を組み合わせてこそいないが、合掌した手を高く掲げる。角度的に見えないものの、不動は左手で祐天の胸倉を押さえ、右手に持った剣を突き入れようとしている。背景はやはり夜であることを示す紺色である。

この作品で興味深いのは、祐天の髪の毛が伸びている点である。【図１】では僧侶らしい剃髪した姿であるが、それとは異なる。これは祐天が髪の毛が伸びるほどの期間参籠していたという時間経過を視覚的に表しているのだろう。

３、「祐天上人利生記の図」【図３】

芳年の画業における晩年期に制作された本図は３枚続の横長の画面で、画面中央に祐天と不動、向かって右に不動の脇侍である矜羯羅童子、左に同じく脇侍の制吒迦童子を配する。この年成田山は東京で出開帳を実施しているため、それを念頭に置いた画題選択であろうか。芳年が描いた不動明王額が奉納されたのもこの年である。

本図の背景は闇夜の黒一色で、不動明王は今まさに岩座から祐天の前に進み出た、という趣向である。本図でも不動は左手で祐天の襟を掴み、右手の剣を突き入れようとしている。祐天は胸の前で手を組み合わせ口を開く。髪の毛が伸びている点は【図２】と同様である。写実的で頭身が高いプロポーションの人物表現、打ち込みの強い衣服の描線は、芳年の画業後半期の特徴が顕著である。

本図で着目したいのは、不動の右足元に、剣がもう一振落ちている点である。落ちている剣は不動が手にしたものよりも短い。これは芳年が本図の主題の典拠を『祐天大僧正御伝記』系統の祐天伝に求めたことをうかがわせる。『祐天大僧正御伝記』系統の祐天伝とは、複数ある祐天伝の中でも広く知られ、また歌舞伎等の典拠としてもしばしば参照されたとみなせるものである。

この系統の祐天伝では、祐天の前に示現した不動は祐天に対し、長短の剣のどちらを呑むか選択を迫る。祐天は長い方を選び、その選択に従い長剣が差し込まれる、という流れである。本図に初めて登場したもう一振の剣は、この時選ばれなかった側の短剣であり、【図１】【図２】と比べると画題の典拠に基づくモチーフが増加しているため、【図２】制作以後さらに画題への解釈を深めた結果と位置付けられるのではないか。

つまり芳年は、幕末から明治にかけて、その画業の中で複数回祐天の呑剣譚を主題とする作品を描くにあたり、徐々に主題への理解と解釈を深めていったと考えられるのである。その表れが【図２】から見られた参籠期間の時間経過を可視化する伸びた髪の毛の表現であり、【図３】で描き足された短剣なのである。

先学によると、晩年期の芳年には「江戸回帰」の傾向がみられるという。すなわち、江戸時代親しまれた文芸や歌舞伎に典拠を求め得る画題選択や、北斎や国芳からの図様参照が認められるという。こうした傾向がみられる中、例えば、浅茅ヶ原の一ッ家に住む鬼婆が旅人を殺して金品を奪っていたが、浅草寺の観世音菩薩のおかげで悔い改めるという一ツ家伝承に基づく「一魁随筆　一ツ家老婆」(明治５年）をブラッシュアップし「月百姿」シリーズの中の「孤家月」(明治23年）を描いたことが指摘される（菅原真弓『月岡芳年伝』中央公論美術出版､2018年)。これをふまえると、祐天の呑剣譚もまた、芳年自身による旧作の再解釈によるブラッシュアップと言えるだろう。３点それぞれに付け加えられた要素は、典拠の祐天伝により忠実になっており、徐々に段階を踏みながら典拠への理解と解釈を深め、それを画面に反映させていったのだと考えられよう。

【参考文献】

菅原真弓『月岡芳年伝』中央公論美術出版、2018年
猪岡萌菜「江戸期における祐天の成田不動利生譚の展開と受容」『成田市史研究』43、2019年
猪岡萌菜「祐天の表象と成田不動利生譚の視覚化」『千葉史学』81、2022年

【図１】「東錦浮世稿談　祐天沙弥」

【図２】「雅立功名鑑　祐天大僧正」

【図３】「祐天上人利生記の図」

成田山書道美術館

概要

当館は、書道文化向上と芸術普及の発展に資することを目的として、平成４年（1992）11月１日に開館。公益財団法人成田山文化財団を母体とする書の総合美術館で、成田山新勝寺に参詣される多くの方々の篤志により活動している。

収蔵品は、近現代の書作品を中心に古筆や古写経、中国の拓本なども充実しており、現在約6,700点を数える。展示は、あらゆる角度から書が楽しめるよう、毎回新鮮な展示を心掛けながら、年６～７回のペースで企画展を開催。

立地は、東京ドーム約 3.5 個分の面積を有する広大な日本庭園、成田山公園の一角に位置するため、四季折々の自然美と調和のとれた美術館となっており、作品とともに空間も楽しむことができる。

令和６年度事業報告

職員数　12名
兼　任　２名（館長、課長）
常　勤　６名（男２・女４）
非常勤　４名（嘱託１・パート３）

※展示場照明のLED化工事および空調設備工事のため８月５日から10月18日まで展示休館とした。その期間は職員２名、パート２名が業務サポートのため、成田山仏教図書館と成田山霊光館へ出向した。

展覧会名称／期間	展示場／作品数	入館者数／開館日数
競書40年　現代の書 ２月24日（土）～４月21日（日） 第40回成田山全国競書展 ４月２日（火）～４月21日（日）	１階/36点・２階/54点 １階/優秀作品346点	1,857名／44日 949名／18日
収蔵優品展 生誕110年歿後50年徳野大空を中心に ４月27日（土）～６月16日（日）	１・２階／83点	2,095名／44日
収蔵優品展　生誕160年近藤雪竹の周辺 小企画　生誕100年古谷蒼韻 ６月22日（土）～８月４日（日）	１・２階／86点 ２階／30点	1,183名／38日
館内改修工事のため休館　８月５日～10月18日		
現代千葉の書 千葉県書道協会役員展 10月19日（土）～12月15日（日）	２階／39点 １・２階／108点	7,396名／50日
新春特別展　成田山の美術 －新勝寺に集まる古今の書画・工芸 １月１日（水）～２月16日（日）	１・２階／61点	3,828名／42日
収蔵優品展　篆・隷・楷・行・草・仮名 －書体をめぐる書の表現 ２月22日（土）～３月23日（日）	１・２階／145点	1,579名／26日

1．展示事業

令和６年度、次の展示事業を行った。

・競書40年 現代の書
　第40回成田山全国競書展
・収蔵優品展 生誕110年歿後50年徳野大空を中心に
・収蔵優品展 生誕160年近藤雪竹の周辺
　小企画 生誕100年古谷蒼韻
・現代千葉の書
　千葉県書道協会役員展
・新春特別展 成田山の美術－新勝寺に集まる古今の書画・工芸
・収蔵優品展 篆・隷・楷・行・草・仮名－書体をめぐる書の表現

展示要旨

競書40年 現代の書
第40回成田山全国競書展

成田山全国競書大会は中国書法家協会や中国大使館、読売新聞社が後援し、成田山全国競書大会実行委員会が運営している。「次代を担う青少年に書道を通じて心のやすらぎを与え、豊かな情操を養うこと」を目的に、本年第40回大会を迎えた。そこで第１回大会から現在までを含む、運営陣の先生方の書作の紹介を中心とする企画とした。主に２階は競書大会において顧問、実行委員長、大会事務長を、１階は副実行委員長を務めた先生方の作品を紹介した。そして例年通り、１階は３月末に展示替えを行い、４月より子どもたちの入賞作品が並んだ。

また、競書大会のご縁により生まれた境内の主な門標等複数の原稿を公開した。成瀬映山氏による「御護摩受付所」、梅原清山氏による総門寺標（初公開）など、当館の展示空間を活かした展示となった。加えて、38回大会から会長を務める岸田照泰貫首猊下の書幅を含めた、歴代の主導者の手による書跡も注目し、40回大会の節目にこれまでのあゆみをパネル展示や資料で紹介した。平成26年に受けた成田山全国競書大会実行委員会の外務大臣表彰を筆頭に、書を通じた日中文化交流は成田山に連なる各事業所が連携しながら展開されていることが伝わったのではないかと思う。競書大会の慣習は粛粛と受け継がれている。

期別の入館者数は 1857名。成田山全国競書大会の表彰式における動員数を踏まえると、伸び悩んだ。現代書を俯瞰する意味合いを持つ展示であったが、展覧会タイトルや広報に工夫が求められたように思う。インバウンドは入館者に対して11％強であり、緩やかに増加傾向の成果を得ている。（谷本）

展示風景

収蔵優品展
生誕110年歿後50年徳野大空を中心に

玄潮会主催の生誕100年記念展で出陳され、その後寄贈となった作品を中心にして展覧会を開催した。まとまった形での展覧は当館で初、徳野大空展としても生誕100年展以来の開催となった。10年ぶりの企画展は徳野大空という書人を回顧するのに程よい間隔として感じていただけたからか、2000人を超える見学者をお迎えすることが出来た。

今回出陳した作品の内、数点は徳野大空の代表作としてすでに館の内外でご紹介する機会があり、しばしば話題にも挙がっている。今回の展覧会を機に、より多くの作品が注目を浴びることになるだろう。

近現代の日本の書道史を検証することを活動目的の一つに掲げる当館にとって、徳野大空のような戦後書壇を担った第一世代の作家の作品を多く収蔵することは、書道美術館の今後の活動に大きな力となることを改めて認識することが出来た展覧会であった。引き続き、活動の深化に力を注ぎたい。（山﨑）

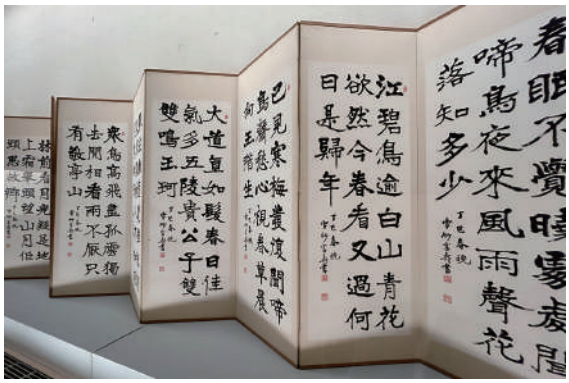
展示風景

収蔵優品展 生誕160年近藤雪竹の周辺
小企画 生誕100年古谷蒼韻

生誕160年を迎えた近藤雪竹をテーマに展覧会を企画した。これまで当館では雪竹を中心とした展示をしたことがなく、雪竹門下のご遺族から寄贈を受けたり、購入したりと作品が充実したことで開催出来ることとなった。ご協力いただいた関係の方々に改めて感謝申し上げたい。雪竹は、作品がまとまって収蔵されていないこともあり、大々的に取り上げられることが少ないが、多くの書道団体が結成され、展覧会活動が盛んになった大正期に指導的な役割を担った重要な存在である。このような作家を取り上げ、顕彰できたことは成果とすることができるだろう。同時代の作家や門人などの作品をあわせて展示することで、雪竹を中心とする明治から昭和にかけての書壇の歩みも見つめ直す好機となった。

併催の「小企画 生誕100年古谷蒼韻」では、作品を中心に愛蔵の文房具や法帖などを展観し、古谷氏の書業をあらためて回顧した。同時期に京都では大規模な生誕100年展が開催され、当館所蔵の作品を70点貸出し、多くの方にご覧いただくことが出来た。そこで本展の案内もしていただけたことで、関西から足を運んでくださる方も多く見受けられ、嬉しい感想も寄せられた。

７、８月は例年のことながら猛暑が続き、この後に改修工事を予定した都合で通常より会期が短く、入館者数は今一つ伸び悩んでしまった。しかし、研修による団体見学や何度となく来館されるリピーターも多く、1000人を超える来館者をお迎えすることができた。今後は、夏季ならではのイベントを計画したり、団体の研修会などの利用を促したり、工夫していきたい。（田村）



近藤雪竹展展示風景

古谷蒼韻展展示風景

現代千葉の書
千葉県書道協会役員展

千葉県書道協会役員展との併催となる同展は、当館主催の企画展として一昨年開催した「近代千葉の書」展を引き継ぐ形でその後の千葉の書をたどることを目的とした「現代千葉の書」展として開催した。首都東京のベットタウンとなる千葉県は、その位置関係から単なる千葉の書のみならず、ひいては現代の日本の書を回顧することにもつながると考えたからである。会期中は、千葉県書道協会の研修会をはじめ、千葉県高等学校教育研究会の研修会、また各書関係の団体の見学など、多くの団体見学があった展覧会となった。

会期中7000人を超える入館者があり、内訳としてはコロナ以前の規模での開催となった無料開館日のイベントが含まれるものの、無料開館

日を除く通常開館日のみの入場者数だけでも約3000人の入館者があった。これは過去の千葉県書道協会との共催展を比べてもトップクラスの入館者数であり、本展への関心の高さが窺われた。

特筆すべきは外国人旅行者と考えられる人々の入館の増加だろう。本年は特に下半期においてコロナ禍を脱したと思われる入館状況にあったが、本展では外国人旅行者団体の入館があるなど、従来にも増して新たな来館者層の増加が感じられた。書の文化を絶えず育んできた国は漢字文化圏の中でも稀少で、その数少ない国である日本は独自の文化である仮名を含め、魅力的な存在として世界中の興味を集めているのだと思われる。今後、書道のユネスコ無形文化遺産登録が認められれば、この動きは加速度的に進むだろう。より良い活動を心がけていきたい。（山﨑）

展示風景

新春特別展 成田山の美術
－新勝寺に集まる古今の書画・工芸

令和10年には開基1090年を迎える成田山において、文化財の保護を促すという観点からも、狩野一信や釈迦堂に関する美術品については繰り返し謳い、その価値を世に問いたい。今回は「風神雷神」図を前面に押し出し、比較的多くのメディアにとり上げられた。

展示内容は、工芸として硯箱を２件、資料として拓本１件を新たに加え、油絵の展示は久しぶりの公開を含んだものとなった。また、松﨑コレクションの古写経は、成田山の宝物にフォーカスした展覧会において今後も核となりそうだ。真言宗行法に纏わる資料を多く有する。

そして注目すべきはインバウンド面である。約360人の入館者を数えた。まだまだ対策は十分とはいえないが、明るい話題である。

成田山の宝物を扱う展示については、品格ある展示を心掛けたい。来年度の正月展に向けて新たな魅力を模索している。（谷本）

展示風景（「風神雷神」）

２．入館者数

	月別	入館者（開館日数）	１日平均
6年	４月	1,357名（21日）	64名
	５月	1,040名（27日）	38名
	６月	826名（22日）	37名
	７月	837名（26日）	32名
	８月	167名（４日）	41名
	10月	425名（11日）	38名
	11月	6,106名（26日）	234名
	12月	865名（13日）	66名
7年	１月	2,581名（28日）	92名
	２月	1,807名（20日）	90名
	３月	1,019名（20日）	50名
６年度合計		17,030名（218日）	78名

３．普及事業

＜展示広報＞

・展示において、ポスター・案内はがき・展示目録を作成。各所への配布・掲示により、集客力の向上を図った。
・案内リーフレット（日本語・英語・中国語）を成田空港や空港周辺ホテルなど近隣施設に配架。
・新勝寺企画課と連携し、報道機関および関係

施設へのプレスリリースを実施。
・報道関係者への展示内覧会を実施。

内覧会の様子

＜講演会・ギャラリートークほか＞
・「収蔵優品展 生誕110年歿後50年徳野大空を中心に」当館学芸員山﨑がギャラリートークを実施　　5月12日（日）13時半～

ギャラリートーク風景

・千葉県書道協会の研修にて当館学芸員田村が講演会、唐紙体験を実施
演題「唐紙の技法」　10月19日（土）14時～

唐紙体験風景

＜成田山文化財団年報の発行＞
「令和５年度 成田山文化財団年報 第15号」を３館（成田山仏教図書館・成田山霊光館・成田山書道美術館）合同で制作。PDFダウンロード方式に変更。

＜ホームページ＞
充実したホームページの公開に努めるとともにSNSの即応性を利用した素早い広報（情報発信）により、書道愛好家への興味関心を促す。館内改修工事期間中にコレクションページを新設し、収蔵品を公開した。
URL：https://www.naritashodo.jp/

HP　Facebook　Twitter

＜博物館実習生の受け入れ＞
本年度は、次の大学より４名を受け入れた。
筑波大学 ３名、二松学舎大学 １名
10月15日～10月20日

＜新勝寺更生事業との協力＞
市原刑務所の入所者更生のため、新勝寺僧侶の引率のもと当館を定期的に見学。学芸員による展示解説を行った。

＜成田高校付属小学校との連携＞
当館学芸員谷本が付属小学校４、５、６年生の総合学習（探求授業）を当館で行った（４月から２月の９時間）。また、５・６年生の書道授業を担当（６、７、12、１月の24時間）。なお、授業で制作された書作品は、当館会議室にて「書き初め展」として展示発表された。

書き初め展展示風景

クラフト展風景

＜奈良市杉岡華邨書道美術館との連携＞

当館所蔵の江戸の書画を奈良市杉岡華邨書道美術館に貸出し、「江戸の書画－うつすしごと①市河米庵を中心に」展を開催。当館学芸員（山﨑）を講師として書道文化講座を実施。

演題「市河米庵の『うつす』しごと」

2月16日（日）14時～

書道講座風景

＜新春書き初めイベント＞

通常の入館料のみにて、日本の年中行事である「書き初め」体験を企画した。2階会議室にて開催。

1月2日（木）12～15時　参加者51名

＜紅葉まつりイベント＞

紅葉まつりの協賛イベントとして「世界と日本の大昆虫展」（2階会議室）、「クラフト展－手仕事いろいろ14」（2階研修室）を開催した。

11月16、17日　入館者数 4,442名（入館無料）

大昆虫展風景

＜研修見学＞

教育機関との連携授業および書道関係などの団体見学で、学芸員により展示解説を行った。

・辻元大雲氏一行 12名　4/18
・玄潮会一行 72名　4/29、5/17
・二松学舎大学一行 13名　5/19
・大東文化大学書道学科一行 101名　5/26、6/9
・千葉市立葛城中学校一行 18名　5/30
・あずさ第一高校一行 78名　6/4、6/7
・笑鄰会一行 12名　6/15
・大東文化大学書道部一行 26名　7/14
・谷村雋堂氏一行 10名　7/15
・中日青少年書道交流展訪日団一行 78名　7/22
・大日本書芸院深川教室一行 20名　7/30
・千葉県書道協会 74名　10/19
・船橋市華道連盟一行 37名　11/7
・鴨川書道協会一行 16名　11/30
・千葉県高等学校教育研究会書道部会一行 46名　12/11
・成田高校付属小学校一行 71名　2/6
・千葉県社会保険労務会北総支部一行 15名　2/24
・我孫子市書道連盟一行16名　3/23

成田高校付属小学校の展示解説風景

＜会議室・研修室の貸出＞

当館では、２階会議室及び研修室を地域文化の発展を目的に書道だけでなく芸術全般に関する発表や創作の場として提供している。

令和６年度の主な利用団体および個人

・玉成会かな教室
・渡貫書道教室
・爽風会書道教室
・成田写仏会
・伝統俳句協会
・不動の庭で遊ぶ会（俳句）
・かつらぎ俳句会
・いには俳句会
・千葉県俳句作家協会
・千葉県書道協会
・千葉県高校書道部会
・大東文化大学書道学科、書道部
・東京墨成会書道展
・成田高校付属小学校書き初め展
・玉成会かな書展
・池田ヨガ教室
・吉田ヨガ教室
・we are one
・他書道団体２件

４．収蔵資料（７年３月31日現在）

・作品数　　6,752件
・図書数　　9,229冊

【寄贈作品・資料】

次の方々より、貴重な作品をご寄贈頂きました。ここに、厚くお礼申しあげます。

作品・資料名	寄贈者
・川口芝香作品１件	荻原玉汀氏
・松井玉箏、筒井扇玉作品２件	松井玉箏氏
・柿下木冠作品１件	柿下ヒデ子氏
・山崎大抱作品１件	大石千世氏
・赤井清美作品､明清書画コレクション 計73件	赤井清美氏
・赤羽雲庭、中里景雲作品 計22件	堤稔也氏
・香川峰雲、春蘭作品ほか 計24件	書道芸術院
・鈴木竹影作品２件	鈴木毅氏
・川北春江、小沢神魚作品２件	神戸雅史氏

【貸出作品】

・千葉市美術館「板倉鼎・須美子展」へ　板倉鼎作品１件
・京都文化博物館「古谷蒼韻展」へ　古谷蒼韻作品85件
・国立新美術館「第75回毎日書道展特別展示墨魂の群像」へ　上松一條作品ほか計５件
・「尾崎邑鵬先生お別れの会」へ　尾崎邑鵬作品３件
・しもだて美術館「書の美展」へ　吉澤鐵之作品２件
・奈良市杉岡華邨書道美術館「江戸の書画―うつすしごと①市河米庵を中心に」へ　作品39件
・東京都美術館「藍筍会書作展」へ　今関脩竹作品１件

【寄贈図書】

個人や団体など各方面の方々より、図書資料のご寄贈がありました。ここにご芳名を記し、お礼申し上げます。

図書名	寄贈者
NHK放送博物館だより2024№70	NHK放送博物館
第62回藍筍会書作展	藍筍会
會津八一と大和路 入江泰吉・杉本健吉とともに	會津八一記念館
市立市川考古博物館館報51	市立市川考古博物館
令和４年度市立市川歴史博物館館報	市立市川歴史博物館

一東566-577号　一東書道会
出光美術館研究紀要第29号　出光美術館
出光美術館館報198、199　同上
稲敷市立歴史民俗資料館 館報 第18号
稲敷市立歴史民俗資料館
稲敷市立歴史民俗資料館調査報告書 第８集 稲敷の仏像・寺院調査報告書④　同上
開館30周年記念 令和５－６年度特別展 川瀬巴水 追憶の情景～巴水が描いた茨城県～　同上
伊能忠敬記念館年報 第26号 令和５年度
伊能忠敬記念館
毎日書道展第75回記念毎日現代書巡回展 今をえがく書かながわ 今をえがく書
かながわ実行委員会
随想 かなとその周辺　上田和草氏
古希記念 池内艸舟作品集　同上
黄檗文華 第143号（CD-ROM）
黄檗山萬福寺文華殿
大洗町幕末と明治の博物館報 令和４年度
大洗町幕末と明治の博物館
山崎大抱遺作展　大石千世氏
山崎大抱書展　同上
山崎大抱の書　同上
偉人たちの邂逅 近現代の書と言葉　大倉集古館
大倉集古館年報・紀要　同上
快晴詩魂の作家シリーズ・11 佐藤哲　快晴社
第４回柿下木冠書個展　柿下ヒデ子
第６回柿下木冠書個展　同上
第７回柿下木冠書展　同上
柿下木冠2014-2016　同上
柿下木冠2017-2018　同上
柿下木冠2019-2020　同上
柿下木冠2020-2021　同上
≪三石≫との交遊記　同上
柿下木冠ニューヨーク書個展・帰国展　同上
追悼柿下木冠近作展2024　同上
道風記念館だより70-73号 春日井市道風記念館
岡寺版集帖　同上
社報『香取』125、126号　香取神宮崇敬会
神奈川近代文学館第164-167号
神奈川近代文学館
神奈川近代文学館年報2023年（令和５年）度
同上
モリサワと文字の100年　株式会社モリサワ
鎌ヶ谷市郷土資料館だより 67-70号
鎌ヶ谷市郷土資料館
百万塔 178-180号　紙の博物館
巒山会報第51号　巒山会
中国書学と近代知　菅野智明氏
観峰館紀要18、19　観峰館
第12回寄鶴文社書展作品集　寄鶴文社
日本近世美術研究第６号　北島古美術研究所
第１回九陽文社展　九陽文社
須田記念視覚の現場第10、11号
きょうと視覚文化振興財団
抜萃のつづり84　クマヒラ・ホールディングス
黒川古文化研究所紀要 古文化研究 23号
黒川古文化研究所
研究図録シリーズ10 魏晋南北朝の金属器　同上
人間書道－魯山人の書を読む　黒田和哉氏
群馬の森 美術館ニュース№198-200
群馬県立近代美術館
墨 288-293号　芸術新聞社
謙慎書道会展役員作品図録第86回展
謙慎書道会
硯刻家五代名倉鳳山硯展心の器
五代名倉鳳山氏
2023年度五島美術館研究紀要第12号
五島美術館
ことのは85-88
言の葉ミュージアム徳島県立文学書道館
小原道城書道美術館報第30、31号
小原道城書道美術館
陶芸家和田的展　佐倉市立美術館
地下へ潜む前に　佐藤達也氏
書くということ　沢村澄子氏
第14回手島右卿賞受賞 沢村澄子 挾土秀平 作品集
同上
月刊美術№593　サン・アート
特別展式年遷宮と日本伝統工芸-不変のフォームと古からのアート- 式年遷宮記念神宮美術館
響き合う名宝 曜変・琳派のかがやき
静嘉堂文庫美術館
初春を祝う 七幅うさぎがやってくる！　同上
お雛様 岩﨑小彌太邸へようこそ　同上
明治美術狂騒曲　同上
饒舌館長ベスト展　同上
二つの頂 宋磁と清朝官窯　同上

画鬼河鍋暁斎×鬼才松浦武四郎「地獄極楽めぐり図」からリアル武四郎涅槃図まで　同上
超日本刀入門revive 鎌倉時代の名刀に学ぶ　同上
眼福 大名家旧蔵、静嘉堂茶道具の粋　同上
平安文学、いとをかし 国宝「源氏物語関屋澪標図屏風」と王朝美のあゆみ　同上
豊原国周生誕190年 歌舞伎を描く 秘蔵の浮世絵初公開！　同上
島田三光書作の軌跡展作品集　島田幸子氏
島田三光コレクション河東碧梧桐欧州からの葉書　同上
島田三光コレクション生誕百五十年河東碧梧桐展図録　同上
書の美展 受け継がれるバトン－浅香鉄心から星弘道・吉澤鐵之へ－　しもだて美術館
修美№148-150　修美社
書海1196-1207　書海社
松本芳翠楷書≪歐陽修『秋聲賦』≫　同上
書声805-816号　書声会
第63回書象展作品集　書象会
日本書法57、58　書道芸術社
書道日本863-874　書道日本社
書星938-949号　書星会
第72回書星展作品集　同上
白井市郷土史の会機関誌『たいわ』39号　白井市郷土史の会
白井市郷土資料館開館30周年記念企画展「小金牧と白井」　白井市郷土資料館
白井市郷土資料館年報21号（令和５年度）同上
鈴木竹影遺墨展　鈴木毅氏
かな名跡の鑑賞　同上
美術の窓488-499　生活の友社
生誕100年古谷蒼韻展　生誕100年古谷蒼韻展実行委員会
第52回日本の書展作品集　全国書美術振興会
全書芸885-896　全日本書芸文化院
書教789-800　全日本書道教育協会
第37回全日本篆刻連盟展　全日本篆刻連盟
全日本美術834-839　全日本美術新聞社
創玄134　創玄書道会
上総堀りの技術を未来へ　袖ヶ浦市郷土博物館
出羽三山と袖ヶ浦の山岳信仰　同上
生誕180年記念呉昌碩の世界　台東区立書道博物館
大東文化大学学芸員課程だより　大東文化大学教職課程センター
大東書道研究第31号　大東文化大学書道研究所
桐墨15号　同上
大東書道651-662号　同上
書道学論集21　大東文化大学大学院文学研究科書道学専攻
令和５年度文学研究科書道学専攻修士論文・修了作品・博士論文研究集録　同上
大東文化大学100年の書―書の大東を受け継ぐ人々―　大東文化大学文学部書道学科
大東書道第24号　大東文化大学書道学会
書への眼差し 高木厚人　高木厚人氏
西行憧憬・高木厚人展　同上
KOREKARAの高木厚人展　同上
吉嗣家資料 印章編、書画編　太宰府市教育委員会
正筆1097-1108号　正筆会
ミュージアム発見伝98　館山市立博物館
石飛博光臨書集古典渉猟第一集～第二十集　田中豪元氏
田原市博物館 研究紀要第３号 田原の文化第47号　田原市博物館
千書協会報第92、93号　千葉県書道協会
第73回千葉県美術展覧会　千葉県美術会
企画展 海を渡った房総の人びと　千葉県文書館
映像説明書「海をまとう-万祝染のわざ-」　千葉県立中央博物館
ニュースレター「しいむじな」第81～84号　同上
クワクボリョータ《コレクション・ネット》　千葉県立美術館
千葉とアーツ・アンド・クラフツ（千葉県立美術館論考集）　同上
アーツ・アンド・クラフツとデザイン　同上
千葉県立美術館年報№49　同上
千葉県立美術館報「みる かたる つくる」112号　同上
風の記憶　同上
開館50周年記念千葉県立美術館コレクション100選　同上
浅井忠、あちこちに行く―むすばれる人、つながる時代―　同上
五十嵐靖晃 海風　同上
しおさい№204-207　同上

千葉の行商-小さなからだと大きなカゴと－
千葉県立房総のむら
令和６年度トピックス展「房総の牧」展示解説書
同上
サムライ、浮世絵師になる　鳥文斎栄之展
千葉市美術館
板倉鼎・須美子　パリに生きたふたりの画家
同上
岡本秋暉　百花百鳥に挑んだ江戸の絵師―摘水軒コレクションを中心に　同上
江戸絵画縦横無尽！摘水軒コレクション名品展
同上
中日会報212-214号　中部日本書道会
九十年の歩み　同上
別冊太陽スペシャル 宮田雅之の切り絵「八犬伝」
摘水軒記念文化振興財団
中国書画抄録（一）台東区立書道博物館・東京国立博物館・三井記念美術館蔵
東京国立博物館
書道Ⅲ　東京書籍株式会社
静嘉堂所蔵古写経群の調査と研究
東京大学史料編纂所
東京文化財研究所紀要2024　東京文化財研究所
美術史学45号
東北大学大学院文学研究科美術史学講座
葵№130-133　徳川美術館
徳島県立文学書道館研究紀要 水脈第20号
徳島県立文学書道館
書道特別展 受贈記念 青山杉雨展　同上
書道特別展 小坂奇石－大分に残る名品　同上
徳野大空遺墨集　徳野恵美子氏
独立広報135、136号　独立書人団
書で巡る まほろば展 図録
奈良市杉岡華邨書道美術館
成田高等学校 創立百二十五周年記念誌
成田高等学校
服部正一郎回顧展　成田山新勝寺
名古屋 成田山 639-849号
成田山名古屋別院大聖寺
法談第70号　成田山法談会
成田市史研究48号　成田市教育委員会
成田市の文化財第55集　成田市教育委員会
令和６年度 なりたの教育　同上
資料館だより16　成田市下総歴史民俗資料館
富岡鐵齋没後100年記念 鐵齋・八一の文人世界
新潟市會津八一記念館
日展ニュース№187-189　日展
第11回日展作品集　同上
日本近代文学館319-324　日本近代文学館
伝統と創意 第78回日本書芸院展作品集
日本書芸院
書道美術820号　日本書道美術院
野田市郷土博物館市民会館年報・紀要2022年度
野田市郷土博物館
茂木佐平治邸の百年―醤油醸造家の邸宅から市民会館へ―　同上
美じょん新報295-306号　ビジョン企画出版社
ふくやま美術館・ふくやま書道美術館年報
2021-2022　ふくやま書道美術館
成田市新春書道・華道展第10回記念出品作家収蔵コレクション展　藤崎義舟氏
fuinifuku KAZE-心をゆさぶる駒井光明コレクション-　筆の里工房
文化財保存修復学会誌 vol.67
文化財保存修復学会
ICOM-ICMS 東京大会 2023報告書　文化庁
豊道春海顕彰会会報第21号　豊道春海顕彰会
抱一会会報 第五十刊　抱一会
墨魂の群像－毎日の書48人　毎日書道会
現代の書新春展 今いきづく墨の華　同上
三井家伝世の至宝に関する文化史的考察
三井記念美術館
三井美術文化史論集第17号　同上
蔵品図録 茶の湯の美学―利休・織部・遠州の茶道具―　三井文庫 三井記念美術館
桃太郎作品集 逍遥遊　桃太郎遺墨展実行委員会
由源666-677号　由源社
吉村昭の手紙　吉村昭記念文学館
万年筆の旅vol.22、23　同上
幕末のドラマ 吉村昭が描く「桜田門外ノ変」
同上
読売書法会会報第84号　読売書法会
ニューヨークを舞台にした日本人アーティストたち－木村利三郎作≪メトロポリス≫を中心に
早稲田大学會津八一記念博物館
国府台27号 和洋女子大学文化資料館・博物館学課程報告　和洋女子大学
久能山東照宮博物館館報27
久能山東照宮博物館

大田区立熊谷恒子記念館版記念館ノート８号
大田区立熊谷恒子記念館
書の美266-277号　日本書学研究会
新編 書論の文化史　雄山閣

５．調査・研究

・館蔵作品及び各展覧会開催に伴う調査。
・成田山新勝寺および周辺財団で所蔵する美術資料の調査。
・学校や地域との連携に関する調査･研究。
・書に関する広汎な研究。

６．その他

＜売店について＞

館内受付脇の売店（ミュージアムショップ）では、文房四宝・各種書道用具をはじめ書籍や展示図録などを販売。受付に申し出ることにより売店のみの利用も可能。

令和７年度事業予定表

１．展示事業

	展覧会名及び概要	開催期間
1	**幕末明治の下谷文人** 江戸から明治期にかけて、江戸の下谷周辺には多くの文人が集まった。文人たちは煎茶や詩文、書画などを楽しみ、近代を迎えて書画会も盛んに開催されている。そうした文人たちの書や画を紹介する。	７年　４月26日(土)～ ６月15日(日)
2	**収蔵優品展 戦後日本「新しい書」のかたち** 現代に書が芸術に位置づけられたことは、書の世界により一層の深みをもたらした。戦後に「漢字」「仮名」「漢字仮名交じり」「篆刻」「刻字」「前衛書」といった分類化が進み、多くの書家が新たな書の魅力に迫ろうとした。本展では当館の現代を象徴するコレクションを中心に、新しさとは何かを考える。	６月21日(土)～ ８月11日(月)
3	**赤井清美の仕事と明清の書** 『篆隷大字典』『行草大字典』などの編集で知られ、自身も国内外で精力的に魅力溢れる作品を発表し続けた赤井氏。本展では長年の編著活動を振り返りつつ、昨年寄贈された赤井氏の玉作と旧蔵の中国明清時代の書をあわせて展覧することで、赤井氏の仕事を紹介する。	８月23日(土)～ 10月13日(月)
4	**書の公募展100年** 大正14年(1925)に初の書の公募展である日本書道作振会展が上野の日本美術協会で開催され、100年が経つ。公募展が行われるようになったことで、作品の様式や表現にも影響を与えた。公募展を軸にしてこの100年を振り返る。	10月21日(火)～ 12月14日(日)
5	**新春特別展 成田山の山水花鳥** 成田山新勝寺は、江戸期から始まる市川団十郎家の成田山信仰や佐倉藩主を勤めた堀田家の帰依、江戸出開帳の実施などによる成田詣での盛行により、大きく発展した。その証として成田山新勝寺や成田山文化財団にはさまざまな美術品や資料が伝えられている。それらの公開を通して、成田山の歴史や魅力を感じていただきたい。	８年　１月１日(木)～ ２月15日(日)
6	**収蔵優品展 歿後50年赤羽雲庭** 王羲之や宋の書法を基盤にしながら、独特の禅的世界を構築した赤羽雲庭の歿後50年を記念した展覧会。生誕100年展以降に寄贈を受けた作品は初公開となる。収蔵品を中心に赤羽の書業を回顧する。 １階展示場では、４月から第42回成田山全国競書展を開催する。	２月21日(土)～ ４月19日(日)

※展覧会名、開催期間については、変更となる場合があります。

2．普及事業

・展示に関連する講演会や解説会の開催。
　教育や福祉機関などとの連携。
・書道や芸術の啓蒙活動のため、研修室や会議室などの施設貸出。
・展示に係わる、ポスター・案内ハガキ・陳列目録の発行および発送。

3．調査･研究

・館蔵作品及び各展覧会開催に伴う調査。
・成田山新勝寺および周辺財団で所蔵する美術資料の調査。
・学校や地域との連携に関する調査･研究。
・書に関する広汎な研究。

研究報告

収蔵品のデジタルアーカイブ化対応状況について

山﨑　亮

現代のIT化への流れは目覚ましく、実物を扱うことが基本の美術館においても資料のデジタルデータ化が急務となってきている。インターネット検索において上位に表示されるサイトが閲覧件数を伸ばしてさらに注目を浴びるように、早い段階での対応が求められている。今後、より注力すべき業務の一つとして現在の状況を考察したい。

2015年の第38回ユネスコ総会にて「保存は、アナログ及びデジタルの双方の対象の管理を必要とする進行中の過程であり…（中略）。アナログ媒体は、真正な原本、芸術品又は情報を担う媒体として継続的な価値のあるものとして保持されるべきである。」と定義された。1992年に開館した当館はまさにこの進行中の過程にあり、四半世紀にわたって資料の姿を記録してきたポジ、ネガフィルムはここ10年でデジタルカメラによるデータ保存に移り変わった。現在当館ではこの定義に沿った形でアナログ媒体のデジタル複製化と、新規資料のデジタルデータ保存を並行して進めている。

ここ数年の新型コロナによるパンデミックの経験は、こうした社会状況を一層と進める大きな要因となった。2023年４月１日に施行された新博物館法では、博物館の事業の中に「博物館資料に係る電磁的記録を作成し、公開すること。」という項目が追加され、インターネットを介した情報のやり取りの機会が飛躍的に増加していることからその重要性がますます高まっており、コロナ禍のように博物館の施設に利用の制限が求められた際のデジタル的な対応の有用性についても言及されている。当館で所蔵する6500点余りの収蔵品は、国内有数のコレクションとして知られ、高等学校の書道教科書を始めとした画像掲載依頼も多く、国内外から大きな関心が寄せられている。こうした要請に応えなければいけないと考えている。

本年度当館は展示場のリニューアルとして照明のLED化工事を行った。このため一会期分展覧会を休止することになったが、この期間を利用し、ホームページ上に主な収蔵品として画像でのコレクション紹介のページを設け、デジタルアーカイブ化の一段階としての業務を行った。詳細は以下の通りである。

成田山書道美術館ホームページ上トップページより、コレクション。

・碑法帖（全３項目）
　田近憲三蒐集拓本コレクション
　松井如流蒐集拓本コレクション
　古谷蒼韻蒐集法帖コレクション
・古筆・古写経（全２項目）
　松﨑コレクション
　伊藤鳳雲コレクション
・江戸時代の書（全42項目）
　貫名菘翁コレクション
　菅間コレクション　他
・明清の書（全４項目）
　赤井清美蒐集明清書画コレクション　他
・近代日本の書（全72項目）
　中林梧竹コレクション
　西川春洞コレクション　他
・現代日本の書（漢字）(全45項目)
　青山杉雨コレクション
　松本芳翠コレクション　他
・現代日本の書（仮名）(全33項目)
　西谷卯木コレクション
　今関脩竹コレクション　他
・現代日本の書（漢字仮名交じり・篆刻・前衛

など)(全17項目)
香川峰雲コレクション
千代倉桜舟コレクション　他
・今日の書（全15項目）
新井光風　他
・文化人の書（全22項目）
福沢諭吉　他
・印と印譜（全２項目）
印譜
自用印

今回の作業により、当館の収蔵品の核となる当館のコレクションは網羅的に画像で閲覧することが可能になった。今後、収蔵状況に応じてこれらのデータを追加更新していくことで、当館の魅力がインターネット上でも拡散していくに違いない。日本が世界に誇る書の専門美術館として今後も活動を続けて行きたい。

（成田山書道美術館 学芸員）

寄付金のお願い

成田山書道美術館は、平成４年11月に開館し主に近･現代の書作品を中心に収集し、それらを基に展示普及事業を行い、平成25年３月には、これまでの書道文化振興に資する役割が評価され、成田山文化財団を構成する成田山仏教図書館・成田山霊光館とともに、公益財団法人に認定されました。

今後も老朽化した施設整備を図りつつ、皆様のご期待に添えるよう、魅力ある美術館として活動してまいりますので、温かいご支援をお願いいたします。

【寄附を必要としている事業】

建物・施設整備事業
調査・研究事業
その他、成田山書道美術館の事業運営に係る事業

【寄附単位】

法人　１口　50,000円
個人　１口　10,000円

【特典】

１．１口につき招待券（個人10枚、法人50枚）を進呈いたします。
２．成田山文化財団報にご芳名を掲載し、進呈いたします。※掲載の許可をいただいた方のみ
３．ご寄付が10口以上の法人及び個人には感謝状を贈呈いたします。

【申込方法】

所定の「寄付金申込書」(ホームページよりダウンロード）にご記入の上、下記宛てにお申込みください。

【申込受付】

〒286-0023　千葉県成田市成田640
公益財団法人　成田山書道美術館
総務課　寄附金担当
TEL.0476-24-0774　FAX 0476-23-2218

【払込方法】

払込取扱金融機関にて下記の銀行口座への払込をお願いいたします。なお、振込手数料のご負担をお願いいたします。
京葉銀行　成田支店　普通　No.5883361
ナリタサンショドウビジュツカン　カンチョウ　タナカ　ショウコウ
成田山書道美術館　館長　田中照広
現金でのご寄付は、直接ご持参ください。

【税制の優遇】

当館は、税法上の優遇措置対象となる「公益財団法人」となっており、所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。確定申告時に当館が発行する寄附金受領証明書を税務署に提出してください。詳細については、お近くの税務署にお問い合わせください。

【個人情報の取扱い】

成田山書道美術館が取得した皆様の個人情報は、行政庁への申請書、ご寄付のお願い、当館のお知らせなどの送付以外に利用したり、本人の同意がなく第三者に提供することはありません。

また、取得した個人情報は漏洩・損失・紛失・改ざん・不正利用などを防止するため、法令、指針に従って必要な措置を講じ、個人情報を適切に管理いたします。

【注意事項】

お申込み予定日より10日以内にご入金のない場合、お申し込みはキャンセルとさせていただきます。

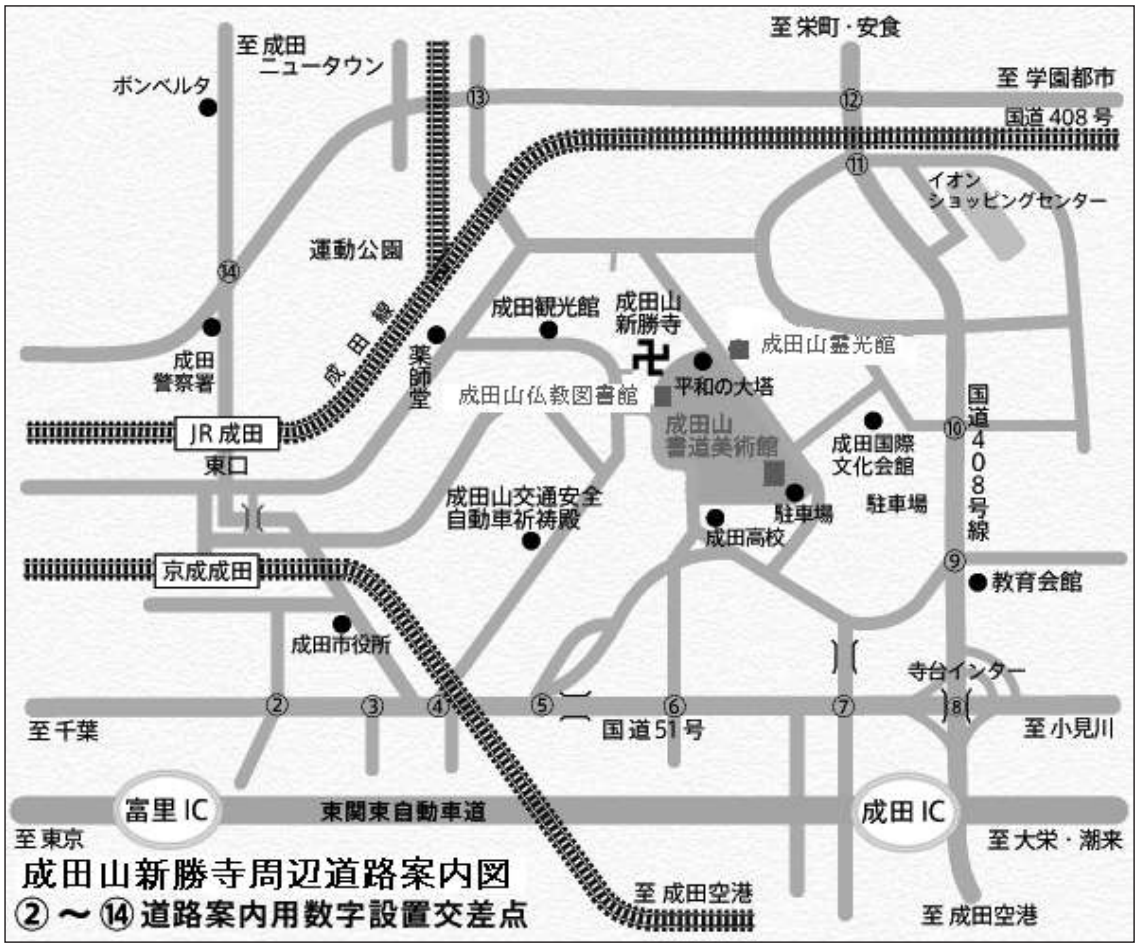
理由の如何に問わず寄付後の払い戻しはいたしません。

令和６年度寄付者

●松井玉箏氏
●大石千世氏
●生誕百年古谷蒼韻展実行委員会

上記の方々より貴重なご寄付を頂きました。紙面に掲示して、厚く御礼申し上げます。

案内図・利用案内



成田山仏教図書館

開館時間：９時～17時
休 館 日：毎週、日・月・木曜日・国民の祝日（但し、日・木曜日については、電話によるレファレンス・閲覧予約等によるご来館は可能。）

交通
・JR成田・京成成田　各駅より徒歩15分
・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩５分
位置：成田山大本堂左手、聖徳太子堂下
○住所・連絡
〒286-0024　千葉県成田市田町312番地
電話 0476-22-0407　Fax 0476-24-4465

成田山霊光館

開館時間：８時30分～16時30分
休 館 日：月曜日・国民の祝日

展示は、成田山平和大塔１階霊光殿にて開催（６時～16時・無料）。

交通
・JR成田・京成成田　各駅より徒歩20分
・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩15分
位置：成田山平和大塔の後方
○住所・連絡
〒286-0021　千葉県成田市土屋238番地
電話 0476-22-0234　Fax 0476-22-0242

成田山書道美術館

開館時間：９時～16時（入館は15時30分まで）
休 館 日：月曜日
（祝日の場合は開館し、翌平日が休館）
入 館 料：大人　500円（300円）
高・大学生　300円（200円）
中学生以下無料
（※カッコ内料金は団体20名以上）

交通
・JR成田・京成成田　各駅より徒歩25分
・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩10分
位置：成田山公園内、三ノ池の畔
○住所・連絡
〒286-0023　千葉県成田市成田640番地
電話 0476-24-0774　Fax 0476-23-2218

令和６年度 成田山文化財団年報 第16号

発 行 日　令和７年(2025) ４月30日
編集発行　公益財団法人 成田山文化財団
連 絡 先　成田山書道美術館
〒286-0023 成田市成田640
Tel 0476 (24) 0774